

横浜みどりアップ計画3か年の評価・提案（案）

～横浜みどりアップ計画市民推進会議 2021 年度報告書～

目 次

1	はじめに	1
2	横浜みどリアップ計画と市民推進会議	2
	(1) 横浜みどリアップ計画	
	(2) 横浜みどリアップ計画市民推進会議	
3	市民推進会議 2021 年度の活動実績	5
	(1) 2021 年度の活動の概要	
	(2) 活動の詳細内容	
	①市民推進会議（全体会議）	
	②施策別専門部会	
	③広報・見える化部会	
	④調査部会（現地調査）	
4	横浜みどリアップ計画 3か年の評価・提案	16
	◆計画の体系	
	◆各計画の柱のハイライト	
	◆評価・提案の概要	
	(1) 計画の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	22
	施策 1 樹林地の確実な保全の推進	
	施策 2 良好な森を育成する取組の推進	
	施策 3 森と市民とをつなげる取組の推進	
	(2) 計画の柱 2 市民が身近に農を感じる場をつくる	31
	施策 1 農に親しむ取組の推進	
	施策 2 地産地消の推進	
	(3) 計画の柱 3 市民が実感できる緑や花をつくる	40
	施策 1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進	
	施策 2 緑や花に親しむ取組の推進	
	(4) 効果的な広報の展開	48
	市民の理解を広げる広報の展開	
5	市民推進会議委員名簿	54
6	市民推進会議委員からのコメント	58
7	市民推進会議広報誌「Yokohama みどリアップ Action」、 「森づくり体験会」の案内チラシ	62

1 はじめに

進士座長による
メッセージ

横浜みどりアップ計画市民推進会議
座長 進士 五十八

2 横浜みどりアップ計画と市民推進会議

(1) 横浜みどりアップ計画

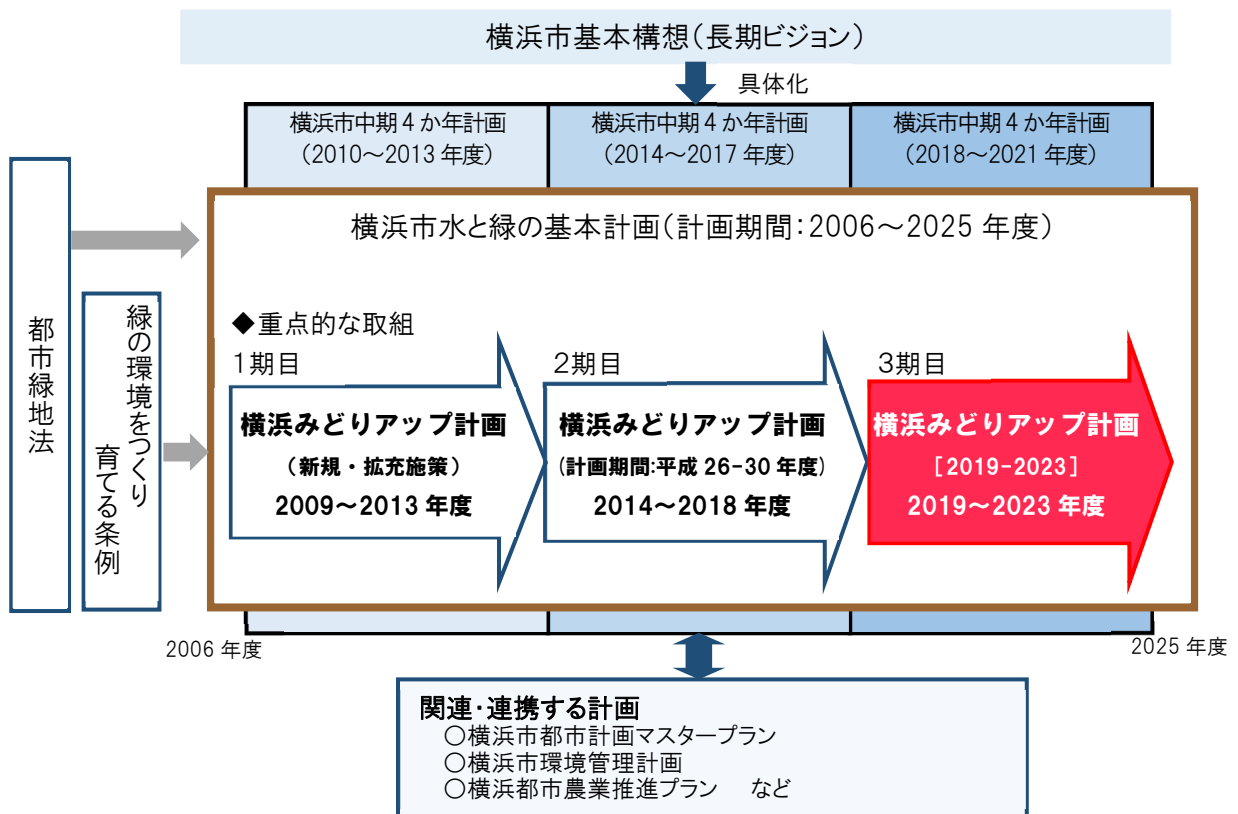
ア 位置付け

横浜市は、大都市でありながら、市民生活の身近な場所にまとまった規模の樹林地や農地などがあり、また、起伏に富んだ地形から、変化に富んだ水や緑の環境を有しています。この緑の環境を生かし、次世代へ引き継いでいくため、市は2025年度を目標年次とした「横浜市水と緑の基本計画」を2006年に策定し、計画に基づき長期的な視点から「横浜らしい水・緑環境の実現」に向けた取組を展開しています。

1期目となる「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」は、2008年度までの取組を強化・充実するため2009年度から2013年度までの5か年の事業計画として策定されました。また、「横浜みどり税」は、取組を進めるための重要な財源として2009年度から導入されました。

緑の保全や創造は長い時間をかけて継続的に取り組むことが重要であることから、2期目となる「横浜みどりアップ計画(計画期間:平成26-30年度)」が策定されました。

さらに、2期目の取組の成果や課題、市民意見募集結果などを踏まえ、3期目となる「横浜みどりアップ計画[2019-2023]」が策定されました。



【図】横浜みどりアップ計画 [2019-2023] の位置付け

イ 横浜みどりアップ計画[2019-2023]の構成

2019年度より、3期目の「横浜みどりアップ計画」に基づき、「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を理念とし、5か年の目標を設定しました。目標の実現に向け、横浜みどりアップ計画では、「市民とともに次世代につなぐ森を育む」「市民が身近に農を感じる場をつくる」「市民が実感できる緑や花をつくる」を3つの柱とした取組と効果的な広報を推進しています。

計画の理念 みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜

5か年の目標

1 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します

緑地保全制度による指定が進むことで樹林地の担保量が増加、水田の保全面積を維持、市街地で緑を創出する取組が進展 など

2 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます

森の保全管理など緑の多様な機能や役割を発揮する取組の進展、緑や花の創出により街の魅力・賑わいが向上 など

3 市民と緑との関わりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します

森に関わるイベントや農作物の収穫体験、地域の緑化活動など、市民や事業者が緑に関わる機会が増加 など

計画の柱 1

市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な機能や役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

計画の柱 2

市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

計画の柱 3

市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組めます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。



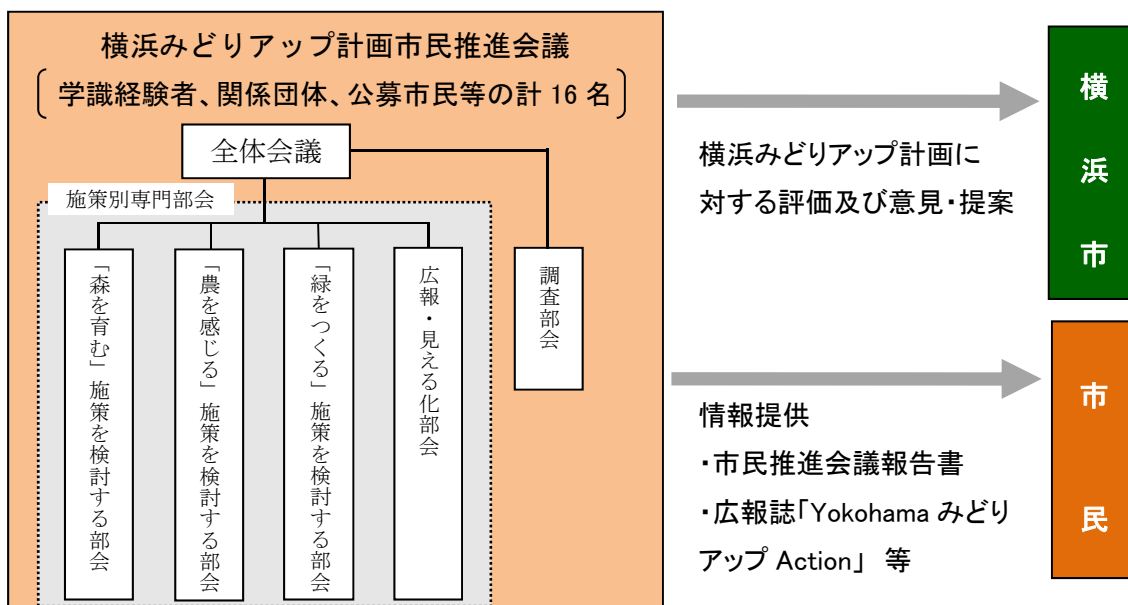
効果的な広報の展開

(2) 横浜みどりアップ計画市民推進会議

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、市民参加の組織により、横浜みどりアップ計画の評価及び意見・提案、市民への情報提供等を行うことを目的として、2009年に設置され、2012年からは条例設置の附属機関に位置付けられました。これまでに全体会議や施策別専門部会の開催に加え、参加市民を公募したオープンフォーラムや現地調査を実施し、市民意見の聴取にも努め、計画の評価・提案を行ってきました。

横浜みどりアップ計画を推進するうえで、市民推進会議の取組は大きな役割を果たしており、3期目の横浜みどりアップ計画についても継続して活動することとなりました。

2019年度からは新たな委員も含め、学識経験者や関係団体、町内会・自治会代表、公募市民の計16名で活動しています。(54頁に委員名簿を掲載)



横浜市附属機関設置条例第2条第2項本文：

附属機関(※)の担任する事務は、別表担当事務の欄に掲げるとおりとする。

別表(抜粋)

執行機関	附属機関	担当事務	委員の定数
(中 略)			
市長	横浜みどりアップ計画市民推進会議	横浜市内の樹林地及び農地の保全並びに緑化の推進を図ることを目的とする横浜みどりアップ計画に係る施策及び事業についての情報提供、評価等に関する事務	20人以内
(以下省略)			

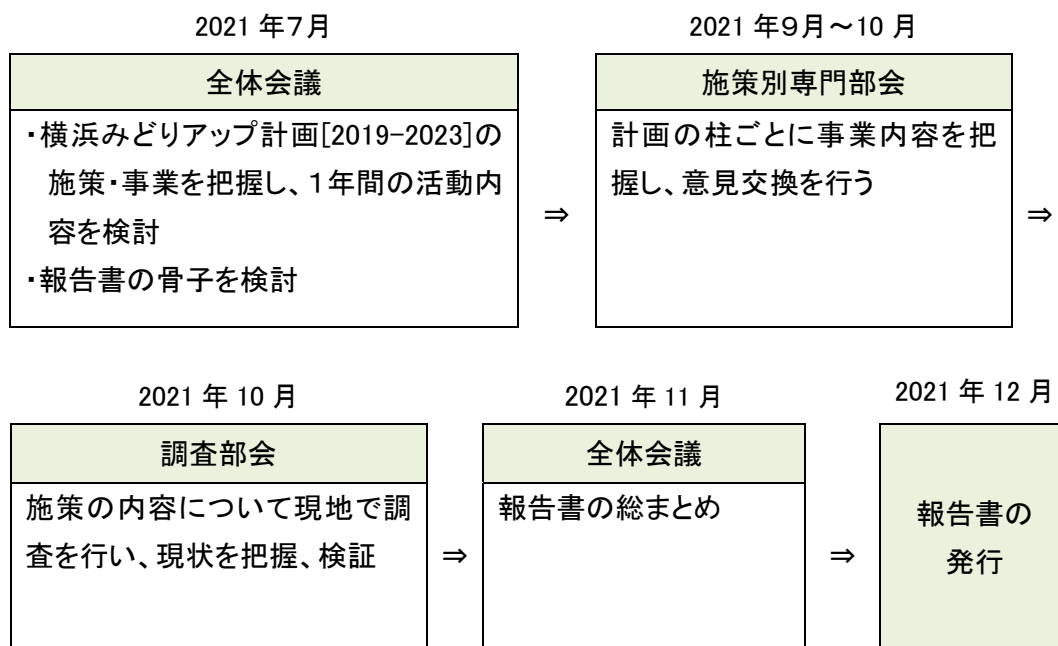
※附属機関とは、法律又は条例に基づき設置する機関で、市長等の執行機関の要請により、行政執行のために必要な審査、審議、調査等を行うことを職務とする機関。

3 市民推進会議 2021 年度の活動実績

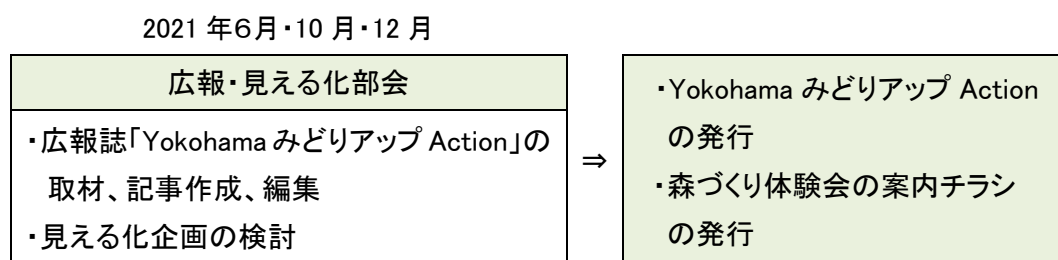
(1) 2021 年度の活動の概要

市民推進会議の主な活動は、「横浜みどりアップ計画に対する評価及び意見・提案」と「市民への情報提供」の2つです。

ア 横浜みどりアップ計画に対する評価及び意見・提案



イ 市民への情報提供



2021年度は引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策として、WEBを併用したりモート会議の開催や飛沫感染防止のマスク着用、手指消毒の徹底をしながら活動に取り組みました。

(2) 活動の詳細内容

ア 市民推進会議(全体会議)

市民推進会議の全体会議において、部会の構成や調査の実施など年間の活動内容を確認し、横浜みどりアップ計画の内容、進捗状況について説明を受けて、質疑応答、意見交換を行いました。

(ア) 第34回市民推進会議(2021年7月12日)

- ・横浜みどりアップ計画の進捗状況について
- ・市民推進会議 2020年度報告書について



(イ) 第35回市民推進会議(2021年11月26日)

- ・横浜みどりアップ計画 2020年度の事業実績について
- ・市民推進会議 2020年度報告書(案)について
- ・市民推進会議 2022年度の取組について

イ 施策別専門部会

計画の柱ごとに施策別専門部会を設置し、事業分野ごとに詳細に説明を受け、意見交換を行いました。

※2014年度からは「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、「広報・見える化部会」を設置しているため、「効果的な広報の展開」事業に対する評価・提案については、「広報・見える化部会」にて実施しています。

(ア) 第14回「森を育む」施策を検討する部会(2021年10月6日)

- ・「森を育む」施策の評価・提案について

(イ) 第14回「農を感じる」施策を検討する部会(2021年9月28日)

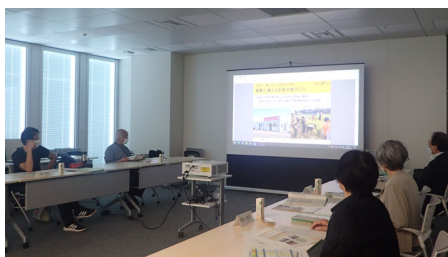
- ・「農を感じる」施策の評価・提案について

(ウ) 第14回「緑をつくる」施策を検討する部会(2021年9月29日)

- ・「緑をつくる」施策の評価・提案について



「森を育む」施策を
検討する部会



「農を感じる」施策を
検討する部会



「緑をつくる」施策を
検討する部会

ウ 広報・見える化部会

2014年度からは「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、「広報・見える化部会」を設置しているため、施策別専門部会として横浜みどりアップ計画の広報について評価・提案を行うとともに、横浜みどりアップ計画や横浜みどり税についての情報提供のあり方の検討や広報誌の編集を行っています。

広報誌「YokohamaみどりアップAction」では、横浜みどりアップ計画の取組が進んでいる現場を取材した上で、緑の魅力をいかに伝え、「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような内容とするために毎号議論を重ね、市民目線の現場レポートを作り上げています。2021年度は第5・6号を発行しました。駅及び主要な公共施設のPRボックスや、各区役所・土木事務所・公園緑地事務所等の公共施設で配布するとともに、市のホームページでも公開しています。

(ア) 第47回広報・見える化部会(2021年6月30日)

- ・2021年度広報誌テーマ案について
- ・見える化企画案について

(イ) みどりアップ Action 第5号取材(2021年7月17日)

- ・テーマ：農園付公園
(泉区 岡津町ふれあい公園)



(ウ) みどりアップ Action 第6号取材(2021年10月2日)

- ・テーマ：地域緑のまちづくり事業
(西区 みなとみらい21 新港地区運河パーク花時計)

(エ) 第48回広報・見える化部会(2021年10月6日)

- ・「効果的な広報の展開」事業の評価・提案について
- ・みどりアップ Action 第5号原稿案について
- ・見える化企画案について
- ・みどりアップ Action 第6号記事内容について



(オ) 第49回広報・見える化部会(2021年12月15日)

- ・みどりアップ Action 第6号原稿案について
- ・2022年度みどりアップ Action テーマ案について

2021年度に発行した「Yokohama みどリアップ Action」及び「森づくり体験会の案内チラシ」

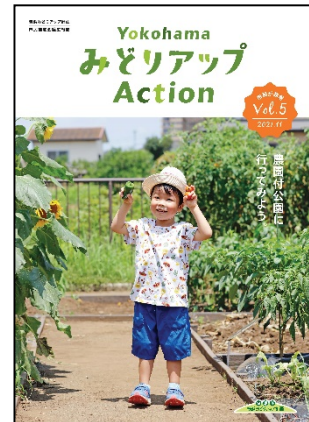
○ YokohamaみどリアップAction 第5号

《発行月》 2021年11月

《発行部数》 18,500部

《テーマ》 農園付公園

(泉区 岡津町ふれあい公園)



遊ぶだけが公園じゃない！野菜づくりをはじめませんか？
農園付公園の一つである「岡津町ふれあい公園」。大人から子どもまで楽しめる野菜づくりを通じた地域交流を紹介しています。お近くの農園付公園を探してみてもはいかがでしょうか。

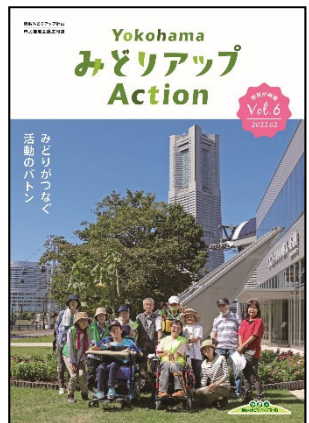
○ YokohamaみどリアップAction 第6号

《発行月》 2022年2月

《発行部数》 18,500部

《テーマ》 地域緑のまちづくり事業

(西区 みなとみらい21新港地区運河パーク花時計)



脈々と受け継がれる花時計
みなとみらい地区の運河パークには花時計（日時計）があります。彩り豊かな花はどのように育まれているのか。「開国博Y150」から続く歴史と地域の活動をご紹介します。

○ 森づくり体験会の案内チラシ

《発行月》 2021年11月

横浜みどリアップ計画、みどり税の見える化の取組として、大学生を対象とした「森づくり体験会」の参加募集チラシを作製しました。市内の大学などでの配付及び市ホームページの掲載を行いました。



※報告書末尾に「Yokohama みどリアップ Action」「森づくり体験会の案内チラシ」を添付しています。

エ 調査部会(現地調査)

<第21回調査部会>

日 時 2021年10月27日(水) 午後1時10分～午後4時45分

参加者 委員12名

調査場所 川和市民の森(都筑区)、
田奈恵みの里 ハマツ子直売所「四季菜館」(青葉区)
並木の再生 環状4号線(十日市場・霧が丘地区)
若葉台もみじ花と緑推進会(旭区)

(ア) 森の多様な機能に着目した森づくりの現場を調査(川和市民の森)

都筑区西部に位置する川和市民の森を視察しました。



川和市民の森の概要を説明



散策路を徒歩

<委員の感想や主な意見>

- よく維持管理されています。愛護会の皆さまの努力に感謝するばかりです。川和市民の森はとても美しい森と思います。
- 間伐などよく手入れされており、散策路も整備されて、良いと感じました。愛護会の皆さまの努力があると思います。担い手づくりが課題かと思えます。
- 蚊が多かったので、驚きました。難しいところですが、利用する方、散策する方にとっても悩ましい存在のように感じました。森として保全されることによって、地域の風景のアクセントにもなっていると思います。
- 良く整備されていて愛護会の皆さまのご苦勞と整備された後の達成感の笑顔が目に見えます。
- きれいな遊歩道が整備され、市のご担当者、また愛護会の方々がしっかりと森を維持管理されていらっしゃると思いました。
- 市民の森は昔の里山と同じで、地域の方が利用しながら手入れをしていました。タケノコ掘り等のイベントで楽しく参加してもらえていて良かったです。若い人達が引継いで下さると良いのですが。

- コナラやクヌギなども多く、子ども達との散歩コースには最適な印象を受けました。ただし、オオスズメバチの存在は、とても危険であり、巣の撤去だけではなく、女王蜂が出てくる春先からの対策をお願いしたいと思いました。
- 愛護会の方達の維持管理の努力もあり、散策路もよく整備されており、タケノコ掘りなどのイベントも行われているとのことで、地域の方にも親しまれていると感じました。
- 川和駅から近く、非常にアクセスが良い場所に市民の森として樹林地が残ったことは良かったと思います。展望台があり、そこまでのアプローチを視察しましたが、市民の利活用の取組状況等を知るためには、休憩広場までの構成・整備の状況の視察が必要と思いました。市民の利活用の一つに広場は重要と感じています。
- 竹林が多く手入れも大変なのかなという印象です。愛護会のメンバーも少ないということで、活動の維持のためにもメンバーが増えるといいと思います。
- 街を通り抜け電車から降りると駅前に管理された農地の中にこんもりとした森があり、懐かしい気持ちになります。森は散策道が整備され市民に利用しやすい立地です。木々の名前も標示されていたら楽しめると思います。
- クヌギや竹林等からなる雑木林で人の手が入った、川和町のシンボリックな森として存在感がある街なかの市民の森と印象を抱きました。しかも、その前の集団農地と一体的な田園環境としての存在が非常に貴重なのだと思えました。そのすぐ近くに駅があり、区画整理事業が行われている状況を考えても、これからの新しい川和地区にある地域資源を市民の森として確保、継承したことは大きな意義があることではないかと思いました。市民の森愛護会も、地権者型ではなく、里山の保全・継承に興味・関心を持つ住民が主体的に参加している。その方々がもっと広がっていくのを期待します。

(イ) 水田の保全・農景観を良好に維持する活動の支援現場を調査

(田奈恵みの里 ハマツ子直売所「四季菜館」)

青葉区及び緑区の一部に位置する田奈恵みの里を視察し、恵みの里事業の概要について説明を受けました。また、直売所「四季菜館」の現場も視察しました。



恵みの里事業の概要説明



四季菜館内の視察

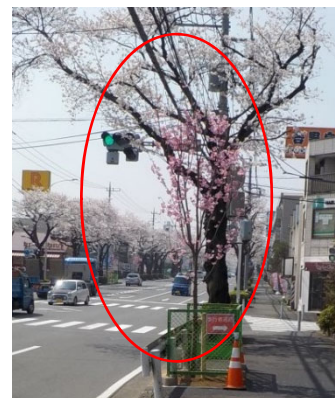
<委員の感想や主な意見>

- 水田保全に奨励金の交付が実施されているなど、農地保全に役立っている状況を説明して頂きました。
- 地産地消教室やイベント、加工など総合的に農の取組を進めているところが良いと思いました。
- これらの事業にどのくらい「みどりアップ計画」が貢献しているのか見えると効果検証にとって有益な素材(データ)になると思います。
- 新鮮野菜から花、植木、加工品などを見て回っているといろいろ購入したくなる品揃えで非常に良い直売所でした。
- 直売所の野菜等に生産者の名前が多くあり、積極的な取組が感じられました。恵みの里における次世代の子ども達との関わりをもう少しお話しが聞ければ良いと思います。
- 新鮮な野菜、季節感あふれる野菜を手にする恩恵を受けられる大切さを感じています。また食の恵みだけではなく、景観としての農の風景は、横浜で暮らす子ども達にも「原風景」として残ることでしょう。今後も大切にしていきたい農の姿と感じています。
- 田奈地区の圃場の様子を近くで確認できませんでしたが、農の散歩道にレンゲなど景観植物を栽培して、散策に来た方々が楽しんでいるとのこと。なお、レンゲを緑肥として田畑にすき込むことは殆んどされていないとのことでした。
- 市民と農を繋げる活動を体験やイベントを通じてきめ細やかに行き、その機能を十分に果たす施設と思われました。
- 四季菜館では、加工所が設けられていることにより、生産物が加工品となって市場に出て、地産地消に繋げている点が地域活性の基盤になっていると思われました。四季菜館での多種の加工品ほか、多くの市内の生産品も取り扱い地産地消の拠点の機能も果たしていると思われました。
- 歴史ある古い蔵を移転させて今の四季菜館になっているという、さらに震災の間に移動していたという話に驚きました。市内の JA 直売所の中で唯一あのような外観の建物であることがとても素敵だと思います。加工品づくりは農家の活躍の場として積極的に進めていくとよいと思います。地元の穀物や野菜を使ったお惣菜や加工品は素晴らしいです。イベントにも参加してみたいと思いました。
- 十日市場農業専用地区は空いている田も見受けられましたが、水利の改修を進めて水田を潤して欲しいです。大草や雑木が育つと元に戻すのに労力がいらいます。
- 販売する農産物等が広く地域外から持ち込まれているとのこと、以前に比べると旧田奈農協管内の農業生産が後退しているのかと感じたところです。水田の奨励金がほぼ 100%使われており、体験水田の取組も根付いていることから水田としては継続的に受け継がれそうですが、直売所に並ぶ野菜や農産加工物に地場産のものが減るのは非常に残念です。
新鮮な地場野菜等の販売が根付くのを願うとともに、おいしい茶饅頭、シフォンケーキ等の田奈ならではの食べ物がいつでも手に入る状況をどう作り出していくのが課題だと感じました。

(ウ) 街路樹による良好な景観の創出・育成現場を調査

(並木の再生 環状4号線十日市場・霧が丘地区)

環状4号線の十日市場・霧が丘地区の老朽化した桜並木などの再生や空いている植栽枠への補植などを車窓から見学し、事業説明を受けました。



ヨウコウの植栽状況

<委員の感想や主な意見>

- サクラ「ヨウコウ」の植替えの工夫は良いと思います。10年後の姿が楽しみです
- 見事な桜並木だと思っただけでしたが、約40年で植替えが必要となると大変だと思います。並木の維持を期待します。
- 街路樹は市民が日常的に目にするものだと思います。ただ日常的すぎるがゆえになかなか気にとめられないと思います。これがみどりアップ計画の事業だと知らない市民が多いと思います。何かしらの看板や掲示ができると良いと思います。
- 大変な大工事となりますが、将来が楽しみです。
- ソメイヨシノの根上がりの箇所が多く見受けられ、道の段差によるお年寄りや子ども達の事故が心配でした。
- ソメイヨシノの植替えは大切です。ゆっくり大きくなる木も何十年かたてば、歩道におさまりきらなくなるので、ゆったりと道幅があると良いと思います。
- 横浜の緑区、青葉区、都筑区に住み続ける理由の一つとして、車で走る車窓からもいつも美しい樹木の緑が見ることができると、また春の訪れを感じられる桜の存在かと思えます。ソメイヨシノの桜を樹木管理の観点から、伐採せざるを得ない問題は各地で起こっているかと思いますが、近隣住民の方たちへの説明、状況を納得させる方法など、どのような形で行っているかという点も、気になる点でした。
- 市内のソメイヨシノの並木は、植栽から約40年になり台風などでの倒木リスクも増しており、衰弱した木から伐採し植え替えています。環状4号線沿いのこの地区もソメイヨシノより成長が遅く、耐寒性・耐暑性への環境適応力が高いヨウコウザクラに植え替えていました。
- 桜の更新で、街路樹に成長の遅い樹種、ヨウコウが植樹されていることがわかりました。花の色がソメイヨシノとは違うようですが、樹種の選択は重要と思えました。
- 見事な花をつけていたソメイヨシノでしたが、老朽化して根元から1メートルほどで伐採し幹だけになっていました。そこから新たな芽が吹き、次世代の木にもなりそうです。拝見した幹からは芽が吹き、再生するのかと思えました。
- 車窓から見ただけですが、桜の木は種類によってだいぶ大きさが違いました。春を象徴する桜の維持管理は大変だと思いますが、再生・保全を継続していただきたいと思います。
- 桜並木の倒木にびっくりです。ヨウコウに更新していただいて、安心して桜をめぐる事が出来ますように。

○この地域の環状4号線の桜はソメイヨシノであったが、約40年が経過する中で、植栽マスの破壊、舗装面の根上がり等が多発しているのはよく耳にしていますが、ベッコウタケのような腐朽菌による衰弱も結構あるとのことあまりよく知りませんでした。街路樹のソメイヨシノも40年もたてば腐朽菌で幹の中から衰弱するものも多く、樹木医の診断に基づき伐採しているとのことでした。

街路樹は成長速度が速いソメイヨシノは不適で、成長が遅いヨウコウを更新植栽していること、ジンダイアケボノは病気には強いという利点はあるが、成長速度は比較的早いので、街路樹には不適であるとのこと、参考になりました。幹線道路の街路樹は、樹形といった景観面の側面だけでなく、時間軸を考えて植栽する必要があるというのは正直驚きました。

(E) 市民と連携した緑のまちづくりに取組む現場を調査(若葉台もみじ花と緑推進会)

旭区若葉台で市民との協働により緑化を進めている現場を見学しました。取組を進めた若葉台もみじ花と緑推進会の方々から、緑化計画や活動の概要、感じている課題などについて説明を受けました。



敷地内の駐車場周辺に新たに植栽



池の跡地を花壇として整備

<委員の感想や主な意見>

○若葉台もみじ花と緑推進会の活動は工夫されており、継続されることを期待します。また、ホームページの広報活動はとても素晴らしいと思います。

○住民の方々の緑を作ろうという熱意に感動しました。緑をきれいに保つには、人手、お金、仕組など大変だと思いました。

○取り組み自体は素晴らしいと思います。「みどりアップ計画」と表示したポップも確認できましたが、このポップの数を増やすことが市民の認知度を高めるのではないのでしょうか。

○広い花壇で今後も維持管理をするのが大変と思いました。推進会の皆さまの苦勞に感謝します。今後のご活躍に期待します。

○推進会のメンバーの人数が少ないなかで、大変精力的に活動されていると感じました。陽当たりの課題もありますが、大きなエリアに今後、花と緑があふれる光景が実現出来るように頑張ってい頂きたいです。

- 本地区では、大変良く取り組んでいると感じました。他の棟の方々もまねして始められるのではないのでしょうか。
- 自治会の特別組織として花と緑推進会があるので、維持管理も上手く行われていると感じました。特に「花と緑憩いの広場」には、のぼり旗や子どもが描いた絵、看板には活動日や QR コードが貼ってあり、また推進会の Web ページと植栽植物など、その場でスマホ検索できる工夫が印象に残りました。
- メンバーの皆さんは意欲的で計画に邁進されている様子が良くわかりました。
- 現状は、樹種等は手が掛かからないような選択はされているようでしたが、その面積が広く、伺った人数では、水やり、除草に追われる活動となり、花柄取り、花植え替え等に力が入れられないと思われました。
- 若葉台団地での取り組みは、古い団地としての新しい住民活動コミュニティガーデンのあり方の一例を見せていただいたように思います。さまざまな同じようなグループを見てきていますが、何よりも、会の方達の団結や和やかな活動の雰囲気がとても素晴らしく感じました。また、どこのマンション等にも一時期存在した噴水、水場の再利用、近隣の学校等の学生さんたちへの景観の配慮など至る所に皆さんの気持ちがこもった花壇作りと感じました。
また、廃校を利用したスポーツ活動等の存在等、高齢になっても健康に自立して生活、住み続けられる街づくり、そしてそれが住民の方たちにも浸透、実行されている様子なども直接伺うことができました。
外側から見ると、住み心地はどうなのかという印象があったのですが、実際に住われている方が、「とても住みやすい良いところだよ！」とおっしゃった言葉がとても印象的でした。園芸作業だけではなく、時には一緒に会食をするなど、相互の交流も活発な様子でした。
- 今後進められる彩のpromenade計画は、バス停近くの街路樹、また、奥の学校の植栽とも続くことで一体感のある景観になるのではないのでしょうか。陽当たりも良くないとのことでしたので、高木に樹種根元に彩のある手のかからない常緑のツワブキ等をさらに植樹しても季節感が感じられると思われそうです。
- 会のメンバーの方の熱意に驚かされました。積極的な活動と、QR コードを活用したホームページなどの情報発信には感心させられました。緑地の改良や修繕において、地権が細かく分かれていることにもまた、勉強になりました。
- 若葉台団地の緑化彩りプロジェクトはいろいろ学ぶことができました。整備後の彩りpromenadeが楽しみです。高校生を巻き込んで管理出来たらより良いと思います。みどりアップ計画による取組がはっきりしていて良かったです。
- 若葉台もみじ自治会の地域緑のまちづくり事業は、期待をもって見学させていただき、話を聞かせてもらいました。団地開発から 30 年が経過し、集会所の前の噴水やその水の流れる水路が使われなくなり、その跡地を使い、元の水路沿いを芝生広場にしたりとポイントを緑化場所にしていました。
それからバス停留所までの歩行者通路に沿ってコキアが植えられていましたが、陽当

たりが悪くて、成長が悪かったり、真っ赤になっていなかったりとまばらになっていました。バス停横の三角広場(駐車場の一部)は規模も大きく、面的には拠点的な緑化場所でしたが、植えられている植生のコンセプトがわかりにくいと感じました。傍らで苗をつくっていましたが、カラスに種が食べられたりしているとのことでしたので、苗床施設の導入を始め、専門家のアドバイスが必要と思いました。

また、星槎高校までの道路沿いの植栽帯は、奥行きがあるため植物の成長に伴い、管理に手間取ることも想定されました。全般的には、今の 30 人のメンバーだけで緑化や維持管理するのは困難で、もっとたくさんの担い手登場を促す仕掛けが重要だと感じました。

4 施策ごとの評価・提案

市民推進会議では、横浜みどりアップ計画の「市民とともに次世代につなぐ森を育む(「森を育む」)」、「市民が身近に農を感じる場をつくる(「農を感じる」)」、「市民が実感できる緑や花をつくる(「緑をつくる」)」の施策と、横浜みどりアップ計画を市民の皆さまに周知するための「広報・PR」について、現地調査で活動団体などからいただいた意見も踏まえて、評価・提案を行いました。

なお、横浜みどりアップ計画で進めている事業・取組には、横浜みどり税の導入時に定めた用途に沿って横浜みどり税を充当している事業・取組と、横浜みどり税を充当せずに進めている事業・取組がありますが、市民推進会議では市民の皆さまが負担している横浜みどり税を充当している事業・取組を中心に評価・提案を行いました。

◆計画の体系

●：横浜みどり税を充当している事業・取組



◆各計画の柱のハイライト

2021年度の実施状況について、これまでの実施状況とあわせて振り返ります。

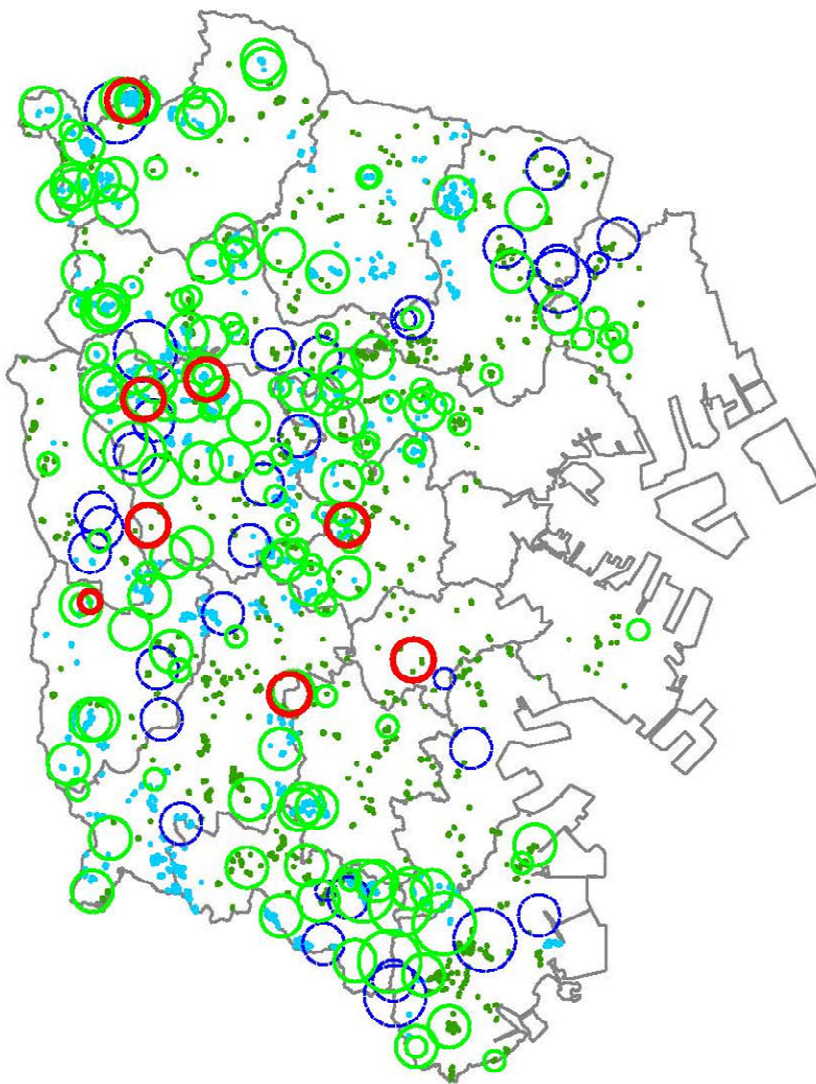


計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

緑地保全制度による指定の拡大が進んでいます

特別緑地保全地区などの緑地保全制度による指定は、緑のネットワークの核となるまとまりのある樹林地を中心に土地所有者へ働きかけを行い、2009年度から2020年度の12年間で約981.7ha、2021年度は31.9ha指定されました。

<緑地保全制度による指定の状況>



2022年3月末現在



<凡例>

都市緑地法、首都圏近郊緑地保全法に基づく指定地区 (特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区)			
■2008年度以前指定地区			
1ha	1ha以上 10ha未満	10ha以上	
■2009～2020年度指定地区			みどりアップ 期間中の指定
1ha	1ha以上 10ha未満	10ha以上	
■2021年度指定地区			本報告書で 評価対象と なる実績
1ha	1ha以上 10ha未満	10ha以上	
市の条例に基づく指定地区			
● 緑地保存地区 (市街化区域の身近な樹林地を保全する制度)			
● 源流の森保存地区 (市街化調整区域の良好な樹林地を保全する制度)			



計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

農園の開設が進んでいます

野菜の収穫や果実のもぎとりなどを気軽に体験できる収穫体験農園、区画割りされた農園で本格的な農作業が出来る認定市民菜園や農園付公園など、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設が進んでいます。



<農園の開設状況>

(2009年度から2021年度の13年間)

※()内は2021年度新規開設・支援分



●収穫体験農園



●収穫体験農園



●認定市民菜園



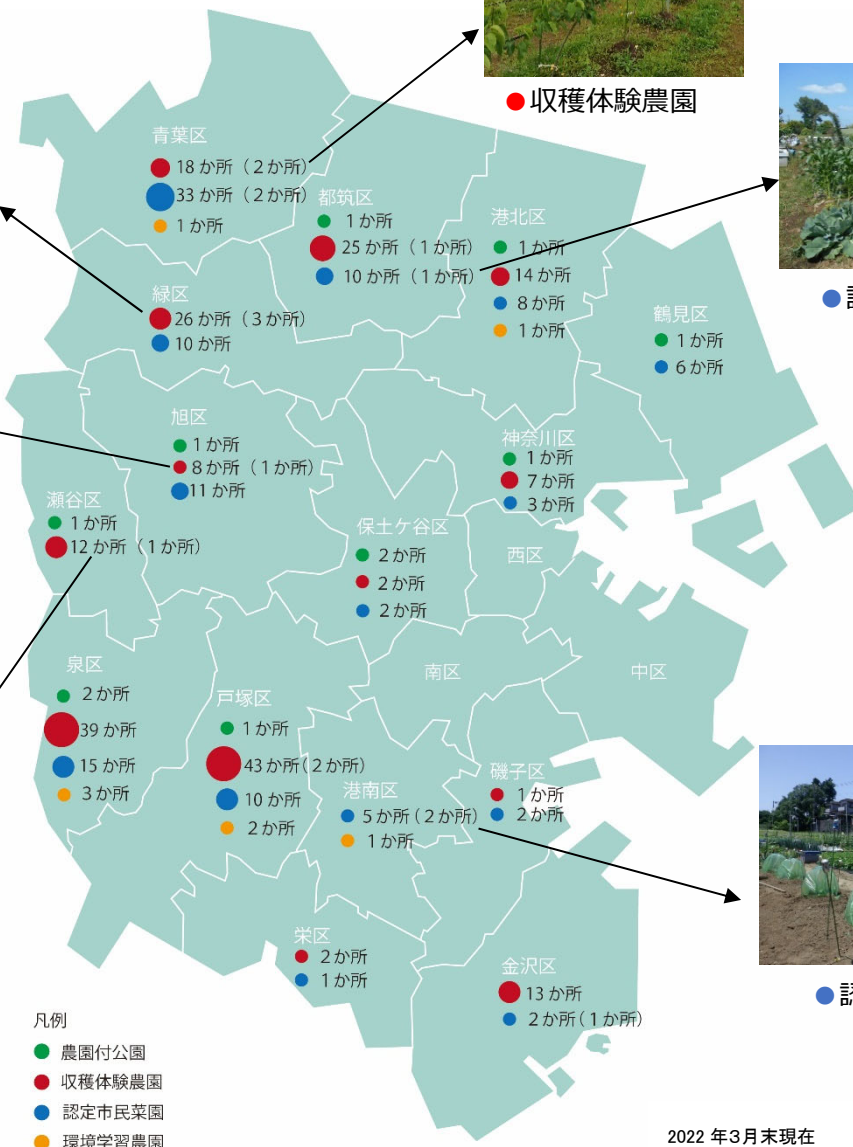
●収穫体験農園



●収穫体験農園



●認定市民菜園



2022年3月末現在

◆評価・提案の概要

「計画の柱1：市民とともに次世代につなぐ森を育む」については、コロナ禍により土地所有者への働きかけが難しい状況においても土地所有者への丁寧な働きかけを継続したことを評価します。

樹林地を良好に管理することは様々な観点から重要であり、良好な管理を行っていることを評価します。引き続き、森の魅力を高める管理を進めるとともに、維持管理助成についても、土地所有者が安心して樹林地を持ち続けられる支援を期待しています。

コロナ禍によりイベントの開催が難しい状況において、工夫しながら事業を行ったことを評価する一方、森を訪れる利用者が増えたことで、利用マナーなどの新たな課題も出てきました。

このような課題への対応も含め、市民の幅広いニーズに沿った森との関わり方ができるような取組の検討を進めてください。

「計画の柱2：市民が身近に農を感じる場をつくる」については、土地所有者や農家等への粘り強い働きかけの結果、着実に取組を進めていることを評価します。またコロナ禍の中、オンラインの活用や感染症対策など工夫しながら事業を進めていることを評価します。

また、身近な場所でできる家庭菜園や農体験などへのニーズが高まってきています。今後は、地域の特色や様々なニーズに合わせ、市民が農にふれあう場が増えていくことを期待します。さらに、市民や企業等の地産地消への関心やニーズをとらえ、多様な主体と連携した取組により、「横浜農場」を活用したPRがさらに推進されることを期待します

農景観保全の取組や地域のニーズに合わせた農の取組を進めることは、担い手の創出や農地の継承にもつながり、農地減少の歯止めになると考えます。今後は、農地だけではなく樹林地や緑の施策と連携しながら地域全体で取り組むことを期待します。

「計画の柱3：市民が実感できる緑や花をつくる」については、概ね順調に取組が進められています。

取組により地域の緑や花が増えて親しむきっかけを生み、維持する活動がコミュニティ醸成につながっています。また、保育園・幼稚園・小学校においても、子どもたちが緑に親しむ空間づくりが広がっています。今後も緑や花の取組において、あらゆる世代の市民や企業の参加につながるようPRを工夫し、活動を継続する支援を充実させていくことを望みます。地域活動が支える質の高い緑や花の取組が一層発展し、市内外へのアピールにつながることを期待しています。

効果的な広報の展開については、事業実施場所の現地表示に二次元バーコードを記載することで、活動している公園愛護会について簡単に知ることができ、身近なみどりへの理解が一層深まるよう取り組んでいます。引き続き二次元バーコードを活用した現地表示を進めてください。

マスコットキャラクターを用いた計画の解説アニメーションを新たに YouTube で発信する取組や、花や緑の映像による庁舎内デジタルサイネージでの放映、幅広く市民が目にする電車やバスの車内広告による広報の取組を評価します。若年層の認知が低いため、映像や SNS など若年層が認知しやすい広報ツールを積極的に取り入れることに期待します。

(1)計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な機能や役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

施策1 樹林地の確実な保全の推進

事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

みどり税

●事業概要(計画書から抜粋)

市内に残る樹林地の多くは民有地であり、まとまりのある樹林地を保全して次世代に引き継ぐためには、土地を所有する方が、できるだけ持ち続けられるよう支援することが必要です。そこで、緑地保全制度に基づく指定により土地所有者へ優遇措置を講じることで、樹林地を保全します。

また、土地所有者の不測の事態等による、樹林地の買入れ申し出に対応します。

●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り				
緑地保全制度による新規指定	60ha	31.9ha	108.0ha	300ha
土地所有者の不測の事態等による土地の買取り	(想定)22.9ha	19.6ha	57.7ha	(想定)113ha
保全した樹林地の整備	推進	86か所	227か所	推進



特別緑地保全地区に新規指定された緑地
(旭区中希望が丘特別緑地保全地区)



緑地保全制度により買入れた緑地
(泉区和泉町早稲田特別緑地保全地区)

市担当者からのコメント(環境創造局緑地保全推進課)

- みどりアップ計画の第3期に入り、制度指定のメリットを土地所有者の皆様にお伝えしながら、さらなる樹林地指定に取り組めました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大防止等の影響もあり、指定面積は、2019年度の47.2haに対し、2020年度28.9ha、2021年度31.9ha、3か年合計では108haと目標を下回る結果となりました。また、3年間に新規指定した緑地1か所あたりの面積は0.51haと、前期みどりアップ計画期間(2014～2018年度)の0.72haに比べ、小規模化しています。
- 都市計画により永続的に緑地を保全する特別緑地保全地区(近郊緑地特別緑地保全地区を含む)は、3年間で新規に9か所を指定し、20か所を拡張しました。
- 一方、樹林地の買取りが進み市の管理地が増えるなか、特別緑地保全地区等の新たな指定にあたっては、傾斜地など地形の状況や接道などの周辺状況を踏まえ、適切な整備や維持管理が行える区域とすることが必要です。区域設定の調整や課題の検討には時間を要しますが、今後もまとまりのある貴重な樹林地を保全するため、粘り強く事業を進めていきます。

◆施策1についての評価・提案

- 緑地保全制度による樹林地の指定については、この数年はコロナ禍により土地所有者への働きかけが難しい状況が続く中でも粘り強く働きかけを継続し、一定の成果を上げてきたことを評価します。
- しかしながら、目標に達していないことは課題であり、引き続き樹林地の指定、買取りによる保全に向けてより効率的な土地所有者への働きかけなどの検討が必要です。
- 指定する個々の樹林地が小規模になってきているということは、これまでの取組により大きな樹林地の指定が進展した結果であると考えられます。今後は、小さな樹林地であっても、きめ細やかに指定実績を積み上げることで、少しでも多くの緑を将来世代に残していくことを期待しています。
- これまで指定、買取りを行った樹林地を適切に管理するとともに、それぞれの樹林地や地域の状況に応じた活用の方向性を検討することも計画や事業への理解を得る上で重要と考えます。

● 施策2 良好な森を育成する取組の推進

事業② 良好な森の育成

みどり税

● 事業概要(計画書から抜粋)

生物多様性の保全、快適性の確保、良好な景観形成、防災・減災など、森に期待される多様な機能が発揮できるように、利用者や樹林地周辺の安全にも配慮し、愛護会や森づくりボランティア、企業等様々な主体と連携しながら、良好な森づくりを進めます。

また、樹林地を所有する方が、できるだけ樹林地として持ち続けられるよう、緑地保全制度による指定地における維持管理の負担を軽減するための支援を行います。

● 実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 森の多様な機能に着目した森づくりの推進				
森の維持管理	推進	保安全管理計画の策定:4か所 維持管理:201か所	保安全管理計画の策定:14か所 維持管理:576か所	推進
取組(2) 指定した樹林地における維持管理の支援				
維持管理の助成	100件	130件	414件	500件

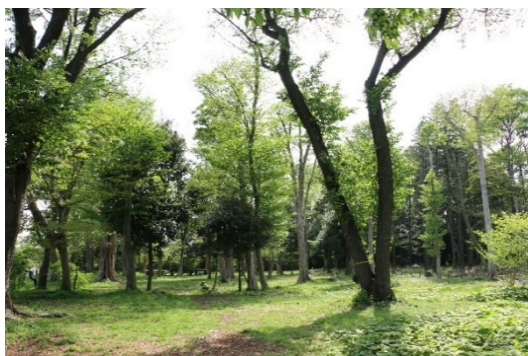
A 【旭区ゾーン】ほろい庭笑の森

実施年度	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	達成率
保安全管理計画策定											
維持管理											
その他											



計画検討会の様子

保安全管理計画の策定 (旭区鶴ヶ峰ふれあいの樹林)



(泉区 古橋市民の森)

森づくりガイドライン等を活用した維持管理



作業前

作業後

(緑区)

維持管理の助成

●事業概要(計画書から抜粋)

市民や事業者と市の協働により森を育む取組を進めるため、森づくり活動に取り組む市民や団体を対象に、活動のための知識や技術に関する研修を実施し、森を育む「人」を育てます。また、森づくり活動を行う団体を対象に、活動に必要な支援を行います。

●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 森づくりを担う人材の育成				
森づくりを担う人材の育成	推進	研修の実施:11回 体験会の開催:10回	研修の実施:38回 体験会の開催:24回	推進
広報誌等での森づくり活動に関する情報発信	4回	4回	12回	20回
取組(2) 森づくり活動団体への支援				
森づくり活動団体への支援	30団体	36団体	99団体	150団体
森づくり活動団体への専門家派遣	4回	4回	12回	20回
チップターの貸出し	推進	6か所	28か所	推進



森づくりを担う人材育成
森づくり体験会(継続編)の様子
(上川井市民の森)



森づくりを担う人材育成
森づくり体験会(親子編)の様子
(寺家ふるさとの森)



森づくりを担う人材育成
アドバイザー派遣
(中田宮の台市民の森愛護会)



市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 樹林地管理においては、特に樹林地外周部の斜面で、災害予防を目的とした剪定や伐採などを行いました。その意義や効果については、多くの方々にご理解をいただけるようになってきたと感じています。市民の森やまとまった樹林のある公園等において保全管理計画の策定が進み、計画的な管理についても、愛護会とも連携しながら進め、多様な環境が形成され多くの生き物が確認でき、樹林地外周部の斜面では豪雨時の土砂流出が抑制されました。今後も作業成果の検証を行いながら、生物多様性や安全性など森の機能を高める管理を着実に進めていきたいと考えています。
- 樹林地維持管理助成事業は、2020年度に比べると申請件数はやや減ったものの、傾向としては依然増加傾向にあります。今後も台風などの災害から樹林地を守っていくための一助として、土地所有者の方にこの助成の活用を呼びかけ、計画的な維持管理をしていただくことで、樹林地における防災・減災を図っていききたいと考えています。
- 「よこはまの森ニュースレター」では研修や支援制度の紹介、愛護会や森づくり活動団体の活動紹介のほか、森づくり活動に必要な安全管理の知識や、森づくり体験会を実施した樹林地の林床にどんな変化がもたらされたのかなどの情報提供を行っています。森づくり活動団体やボランティアの皆さんの活動内容や楽しみの幅が広がるような記事を掲載していきたいと考えています。

◆施策2についての評価・提案

- 計画を進めてきたことで樹林地の保全が進むとともに、それらの樹林地を良好な森として次世代につなぐためには、倒木や土砂流出等の災害予防に加え、多様な環境がつくられ、多様な生きものがみられるような森を育んでいく管理の視点も重要です。引き続き、保全管理計画や森づくりガイドラインを活用しながら、愛護会や森づくり活動団体と森の魅力を高める管理を継続してください。
- 樹林地維持管理助成については、引き続き目標を上回る件数に対応しているとともに、2020年度から助成対象を台風の被害復旧にも拡大するなど、土地所有者のニーズに柔軟に対応していることを評価します。今後も、より多くの土地所有者が安心して樹林地を持ち続けられるよう、ニーズに沿った支援の充実を期待します。
- 近年、横浜市内でも公有地、民有地に関わらず、ナラ枯れ被害が広がっています。全国的に広がっている状況でもあり、有効な対策が難しい問題ですが、引き続き良好な森の育成を進めつつ、支援の充実を検討してください。
- 樹林地の維持管理を支えている愛護会や森づくり活動団体の活動は大変重要です。引き続きニュースレターによる情報発信などの支援を進めるとともに、森づくり活動団体や愛護会の活動がより充実したものとなるよう、必要な支援を行ってください。
- 広報・見える化部会で提案し配布した、若年層向けの森づくり体験会のチラシなど、関心を持つ人を増やし、新たな担い手の確保につながるような取組も検討してください。

施策3 森と市民とをつなげる取組の推進

事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり

みどり税

●事業概要(計画書から抜粋)

横浜の森について理解を深め、さらには行動につなげるため、森に関するイベントや講座の開催により、市民が森に関わるきっかけを提供します。また、市内5か所にあるウェルカムセンターの活用などにより、情報発信等に取り組みます。

●実績

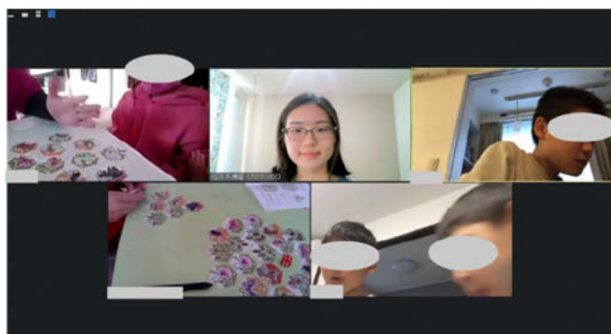
項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 森の楽しみづくり				
市内大学や関係団体などと連携したイベントや、区主催による地域の森でのイベントの実施	36回	42回	151回	180回
取組(2) 森に関する情報発信				
ウェルカムセンター周辺の緑を活用したイベント等	10回	10回	26回	50回

2021年度 ～森の楽しみづくり イベントの内容～

- ・よこはま森の楽校
- ・森の中のプレイパーク(中止)
- ・クラフト教室
- ・自然教室(昆虫観察会) など



よこはま森の楽校の様子
(緑区東洋英和女学院大学)



よこはま森の楽校の様子(Zoomにて開催・送付したゲーム)
(都筑区東京都市大学北村研究室)





**インタープリター養成講座
について**

市内に残るみどりの大切さを
広く知っていただくため、横浜
の森の魅力や役割を、単なる
情報提供だけではなく、直接体
験や教材を通して、効果的に伝
える技術や知識を学ぶ講座で
す。



インタープリター養成講座の様子



ウェルカムセンターイベント
「ヤゴ観察会」の様子
(保土ヶ谷区環境活動支援センター)



ウェルカムセンターイベント
「匂の里山探訪」の様子
(緑区にいほる里山交流センター)

市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 森の楽しみづくりとして、市内各地にある樹林地や緑を活用した自然観察イベント等を実施しました。森の楽校のキャンパスイベントについては、感染症の状況に応じて、対面による体験型とオンラインによる WEB 参加型の両方で各大学が実施しました。市内小学生を対象に図書館及び公園で実施したイベント(森の中のプレイパーク)は、感染状況が悪化したことから、令和3年度は実施することができませんでした。市民の森やふれあいの樹林などの自然観察や散策のできる樹林地が市内には数多くあることを紹介、樹林地で過ごす時間の魅力を感じる機会を提供しました。
- コロナ禍での生活様式の変化から、憩いの場としての市民の樹林地に対する関心は高まっており、これまで関心の無かった方にも樹林地を訪れてもらう機会が増えました。この機会を捉えて、森の楽しみ方を伝え、「横浜の森ファン」を増やすことで、利用マナーや、みどりアップ計画への理解や協力を得ていきたいと考えています。
- しかしながら、感染症の拡大状況によっては、準備を進めたイベントであっても中止の判断をせざるを得ない場面もあり、3年前とはイベントを取り巻く状況は様変わりしています。森の魅力については、現場での体験があつてこそ実感できると考えますが、体験が無くても伝わる、響く情報発信が何かを考えていかなければならないと思います。

◆施策3についての評価・提案

- イベント運営については、コロナ禍により難しい状況が続いている中で、感染対策や開催方法などを工夫しながら目標を上回る回数のイベントを実施したことを評価します。一方で、オンラインイベントや動画等、これまでとは異なる「森に関わるきっかけづくり」の方法が一般的になりつつあります。森の魅力は実際に体験しなければ伝わらない部分もありますが、より多くの市民に森の魅力を伝えるため、様々な方法できっかけづくりの取組を進めてください。
- コロナ禍での生活様式の変化から、身近な自然に対する関心が高まり、市民の森などの樹林地を訪れる市民が増えています。今後も「きっかけづくり」の取組を進めることで、これまで以上に「横浜の森ファン」が増えていくことを期待します。一方で、新たに樹林地を訪れる方が安心・安全に森を利用するためにも、基本的な利用マナーの理解や協力を得るための取組を継続してください。
また、森に関心を持つ市民が増える中で、より多様な森との関わり方が求められていくことが考えられます。散策など個人で森を楽しむことから、観察会への参加や管理作業、森の案内などの森づくり活動まで、幅広いニーズに沿った森との関わり方ができるような取組を検討してください。

「森を育む」施策を検討する部会 部会長コメント

横浜みどりアップ計画の第3期[2019-2023]が中間年までできました。第3期の「森を育む」施策を検討する部会において実感するのは、各種の緑地保全制度による指定の拡大、横浜市による買取りの保証によって森の保全活動が定着してきたことです。同時に、これらの森を育むための人材育成や森づくり活動団体への支援も着実に実行されています。緑の保全は、市民と行政による長い時間がかかる取組ですが、多くの市民の共感を得ています。また、コロナ禍で市民による森の楽しむ機会も増加しています。横浜みどりアップ計画の第3期[2019-2023]において、横浜のみどりアップ計画が絶えることなく実行されていることを高く評価します。

望月 正光



(2) 計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

施策1 農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

みどり税

●事業概要(計画書から抜粋)

農地は良好な農景観の形成や生物多様性の保全、雨水の貯留・かん養機能など多様な機能を有しており、横浜に残る農地や農業がつくりだす「農」の景観は多様です。農業専用地区に代表される、集団的な農地から構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観などが、地域の農景観として多くの市民に親しまれてきました。この農景観を次世代に継承するため、横浜に残る貴重な水田景観を保全する取組や、意欲ある農家や法人などにより農地を維持する取組を支援します。

●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標	
	目標	実績			
取組(1) 水田の保全					
水田保全面積	125ha	112.2ha	112.2ha	125ha	
水源・水路の確保	2か所	2か所	7か所	10か所	
取組(2) 特定農業用施設保全契約の締結					
特定農業用施設保全契約の締結	制度運用	17件	75件	制度運用	
取組(3) 農景観を良好に維持する活動の支援					
まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援	集団農地維持面積	705ha	679.0ha	679.0ha	730ha
	農地縁辺部への植栽	11件	18件	48件	55件
	井戸の改修	1地区	2地区	8地区	5地区
	土砂流出防止対策	3件	2件	11件	15件
周辺環境に配慮した活動への支援	牧草等による環境対策	4ha	5.87ha	14.48ha	20ha
	たい肥化設備等の支援	5件	2件	8件	25件
取組(4) 多様な主体による農地の利用促進					
遊休農地の復元支援	0.3ha	0.26ha	1.38ha	1.5ha	



保全された水田(戸塚区東俣野町)



水田の用水路の更新(青葉区恩田町)



土砂流出防止対策を実施した農地
(都筑区東方町)



まとまりのある農地への景観植物の植栽
(緑区北八朔恵みの里)



●事業概要(計画書から抜粋)

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を市内各地で進めます。

また、市民と農との交流拠点である横浜ふるさと村や恵みの里を中心に、市民が農とふれあう機会の提供や、農家への援農活動を支援します。

●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設				
様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	4ha	4.59ha	12.5ha	22.8ha
うち 収穫体験農園の開設支援	1.5ha	(3.99ha)	(8.92ha)	(7.5ha)
うち 市民農園の開設支援(栽培収穫体験ファーム・環境学習農園・認定市民菜園)	2.00ha	(0.60ha)	(3.03ha)	(10ha)
うち 農園付公園の整備	0ha	(0ha) (着手済 4.4ha)	(0.55ha) (着手済 4.4ha)	(5.3ha)
取組(2) 市民が農を楽しみ支援する取組の推進				
横浜ふるさと村、恵みの里等で農体験教室などの実施	90回	86回	227回	450回
市民農業大学講座の開催(1年次の講座回数)	20回	20回	40回	100回
家族で学ぶ農体験講座の開催	6回	5回	17回	30回



開設支援した収穫体験農園
(戸塚区平戸町)



開設支援した認定市民菜園
(青葉区田奈町)



開設した農園付公園(2019年度)
(瀬谷区阿久和東二丁目)



恵みの里の農体験教室
(緑区北八朔町)



家族で学ぶ農体験講座
(保土ヶ谷区環境活動支援センター)

市担当者からのコメント(環境創造局農政推進課・みどりアップ推進課・環境活動支援センター)

- 水田保全に関する事業では、保全期間10年が満了した土地所有者に更新手続きをお願いしていますが、高齢化が進み、10年後の耕作状況まで見通せないと更新を辞退される方が増えていて、目標の達成に困難を感じています。一方、水稻を作付していながら申し出いただいていない土地所有者も少数ながらいらっしゃるため、個別に事業の趣旨を説明するなど粘り強く働きかけ、新規に1.1haを保全することができました。
- 市民農園の事業では、小中学校の児童が農家の指導により農作業を体験できる環境学習農園において、新型コロナウイルス感染症対策による学校の休校措置やイベントの人数制限対応などにより、園主から「児童への指導を例年通りに実施することができず苦勞している」などの意見や相談が数多く寄せられました。感染拡大防止対策なども工夫して取り入れながら、多くの学校等で体験が行われました。
- 農園付公園は、現在3か所の予定地において開園に向けて整備を進めています。2020年4月1日に公開した阿久和富士見小金台公園では、指定管理者による利用者向けの野菜の育て方指導や、協働農園を活用した収穫体験イベント等が開催されています。
- ふるさと村や恵みの里で実施を予定していた農体験イベントは、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年はその多くが中止されましたが、2021年度は感染症対策を取りながら、多くのイベントを開催することができました。
- コロナ禍の中、恵みの里が実施する収穫体験などのイベントに対して、例年を上回る申込みがあったことや、市民農園の利用に関する問合せの増加など、生活様式の変化に伴い、横浜の農業への関心や農体験のニーズが高まっていることを実感しています。
- 家族で学ぶ農体験講座では、小学生が家族と一緒に作物の植え付けから収穫までの様々な農作業を体験するなど、楽しみながら農と触れ合う機会を提供しました。2020年からは班分けや時間差での作業で密状態を防ぐなど感染症の対策を行いながら、種まきから収穫に至るまでの体験の取組を進めました。参加者からは「農業、自然への興味が増した」、「スーパーや食卓に並ぶ野菜を見て、学んだことについて家族で話すようになった」などの感想がありました。

◆施策1についての評価・提案

- 水田保全の取組については、粘り強い働きかけの結果、着実に新規の保全につなげていることを高く評価します。今後は担い手の高齢化などの課題に対応する仕組みなど、水田景観が未永く維持管理できる方法を検討してください。
- 農地縁辺部への植栽は、市民の目に触れる機会が多い場所に景観植物を植えるなど、順調に進んでいることを評価します。土砂流出対策については、近年、予想を上回る規模の大雨が多く発生していることから、継続して一層強力に対策を実施していく必要があります。
- 遊休農地を解消することは、農景観を保全するうえで大変重要です。良好な農景観の保全に向け、今後も引き続き取組を推進し、関係者と連携しながら遊休農地の解消が進むことを期待します。
- 農景観保全は、農地だけではなく樹林地や緑などの施策と連携しながら地域全体で取り組むことを期待します。
- 市民ニーズに合わせた農園については、収穫体験農園の開設支援が着実に増え、全体として目標を上回ったことは評価します。他の農園についても引き続き開設の取組を進めることを期待します。農園付公園は、用地取得や整備に時間がかかるものの、整備後の利用ニーズがあるため、継続した取組を期待します。
- 市民が農を楽しむ支援する取組については、感染拡大防止対策を行いながら実施したことを評価します。農体験をきっかけとして高まった農への関心が、援農ボランティアなど他事業につながるよう期待します。
- コロナ禍の中、身近な場所でできる家庭菜園や農体験などへのニーズが高まってきています。例えば実際の農家の作業を市民が体験できれば、農への理解はさらに深まると考えられます。また今後は、これまでの取組でニーズに応えられていない地域でも農とふれあうことができるようになることや、地域での農を通じた交流の実現など、様々なニーズに合わせ、市民が農にふれあう場が増えていくことを期待します。

施策2 地産地消の推進

事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進

●事業概要(計画書から抜粋)

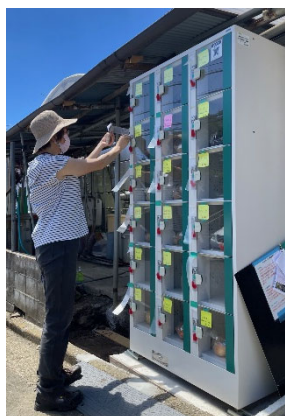
身近に市内産農畜産物や加工品を買える場や機会があることへの市民ニーズは高く、地域で生産されたものを地域で消費する地産地消の取組は、身近に農を感じ、横浜の農への理解を深めるきっかけにもなります。

そこで、「横浜農場*の展開」による地産地消を推進するため、地域でとれた農畜産物などを販売する直売所等の整備・運営支援や、市内で生産される苗木や花苗を配布するなどの取組を進めます。あわせて、地産地消に関わる情報の発信など、PR活動を推進します。

※横浜農場：食や農に関わる多様な人たち、農畜産物、農景観など、横浜らしい農業全体を農場と見立てた言葉

●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 地産地消にふれる機会の拡大				
直売所・青空市等の支援	57件	49件	133件	285件
緑化用苗木の配布	25,000本	22,505本	73,232本	125,000本
情報誌などの発行	6回	6回	18回	30回



野菜の自動販売機(青葉区)



杉田野菜直売所(磯子区)



緑化用苗木の配布(中区)



はまふうどナビ第59号

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

●事業概要(計画書から抜粋)

市内産農畜産物を食材として活用し、加工販売したいと考える企業や、横浜の農業の魅力伝える活動を行う野菜ソムリエや料理人などが増え、市民や企業、学校など農業関係者以外の主体が地産地消の取組を実施する活動が広がっています。この動きをさらに拡大するため、市民の「食」と、農地や農畜産物といった「農」をつなぐ「はまふうどコンシェルジュ」などの地産地消に関わる人材の育成やネットワークの強化を図り、「農のプラットフォーム」を充実するとともに、農と市民・企業等が連携した「横浜農場の展開」を推進します。

●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 地産地消を広げる人材の育成				
はまふうどコンシェルジュの活動支援等	30件	32件	87件	150件
地産地消ネットワーク交流会の開催	1回	1回	3回	5回
取組(2) 市民や企業等との連携				
市民や企業等との連携	10件	13件	41件	50件
ビジネス創出支援	4件	5件	8件	16件
学校給食での市内産農産物の一斉供給	推進	311校	954校	推進
料理コンクールの開催	1回	1回	3回	5回



はまふうどコンシェルジュ活動支援
(マルシェの開催)



地産地消ネットワーク交流会の開催
(食と農のフォーラム)



企業等との連携による地産地消の推進
(横浜 FC ホームゲームにおける地産地消イベントの開催)



はま菜ちゃん料理コンクール
入選作品レシピ集

市担当者からのコメント(環境創造局農業振興課)

- 直売所等の支援として、自動販売機や冷蔵ショーケースの導入等に補助を行いました。また、市民ニーズに応えるため、感染症対策を取りながら、市内各地で青空市やマルシェを開催している団体等に PR 資材やアルコール消毒液等を配付しました。より多くの市民が身近に地産地消を暮らしの中に取り入れてもらえるよう、こうした青空市やマルシェを継続的に支援していくことが必要だと思います。
- 令和3年度は、横浜FCとの連携による横浜FCホームゲームにおける地産地消イベントの実施や、CDA合同会社[※]と連携した市庁舎北プラザでの地産地消キッチンカー継続出店など、新たな地産地消の取組を企業等との連携により実現することができました。その他、マルシェを開催するイベント事業者やメディア関係等からも地産地消に関する相談・問合せが寄せられており、コロナ禍で市民生活に身近な「地産地消」への関心が高まっていることが感じられました。こうした企業等のニーズをとらえ、様々な主体と連携して、より多くの方に横浜で営まれている農の魅力を感じていただけるよう、取組を進めていきます。

※CDA合同会社…関東圏のオフィス街やイベントなどに出店するキッチンカーグループ

- 地産地消ビジネス創出支援事業では、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、講座をオンラインでも実施するなど、柔軟な対応により円滑に事業を進めることができました。また、事業開始にかかる初期費用の補助や専門家による相談対応により、中小企業等が、食育や6次産業化などにつながる新たな地産地消ビジネスに取り組みました。コロナによる経済的影響が長引く中、飲食業等の事業者が新たな事業に取り組む際に「地産地消」に注目するケースも増えているように感じています。

◆施策2についての評価・提案

- 直売所や青空市等は、市民が身近な場所で市内産農畜産物を手に取ることができ、地産地消のきっかけとなる場です。感染症対策を取りながらそうした機会を継続的に提供していることを評価するとともに、引き続き移動販売等の新しいニーズに応じた支援を期待します。
- 400人を超える「はまふうどコンシェルジュ」によるマルシェや農作業体験教室の開催は、地産地消の展開に大きく寄与しています。今後は多様な市民ニーズに応えるために、コンシェルジュ同士が相互に連携を深めるとともに、地域に密着した活動の機会を増やすことを期待します。
- 企業等からのニーズの高まりを受けて農業以外の事業者とも連携が進み、地産地消の取組数が着実に増えています。また地産地消ビジネス創出支援事業では、多様な取組への支援を通じて、地産地消に寄与する活動や、市内産農畜産物を使用した加工品などが新たに生まれています。こうした取組により、市民が身近に農を感じる場づくりが着実に進んでいることを評価します。今後も市民や企業等の地産地消への関心やニーズをとらえ、多様な主体と連携した取組により、「横浜農場」を活用したPRがさらに推進されることを期待します。

「農を感じる」施策を検討する部会 部会長コメント

「農を感じる」施策を検討する部会は、①農に親しむ取組の推進(施策1)②地産地消の推進(施策2)を対象に、評価・提案を行うことになっています。

施策1では、水田保全、農地縁辺部への植栽、市民ニーズに合わせた農園、市民が農を楽しみ支援する取組などで、コロナ禍での創意工夫により目標を上回る実績をあげていると言えます。その一方で、100ha に上ると言われる「耕作放棄地」が増えており、これをどうするかは深刻で重要な問題です。農業後継者の育成、資材置き場化への対応、福祉団体や市民団体等の活用などをできることから組み立て、仕組化するかが大きな課題です。

施策2では、はまふうどコンシェルジュ講座や交流会といった人材育成、市民や企業等との連携が着実に進んでいることは確かです。これからは、市域や区域だけでなく市民に身近な地域レベルで、農家・消費者・学校・飲食店・ヘルスマイト・はまふうどコンシェルジュ・料理教室・大学生など多様な主体が横につながり、新たな視点で地域密着型の取組が実験的にでも少しずつ進展していくことを願っています。また、直売所や青空市が郊外住宅地で高齢者対策として進展しつつある「移動販売」とつながり、新しい動きとして連携させていく必要もあると考えます。

内海 宏



(3) 計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組みます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。

施策1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進

事業① まちなかでの緑の創出・育成

みどり税

●事業概要(計画書から抜粋)

多くの市民の目にふれる場所での緑化や目にする機会の多い街路樹を良好に育成するための取組、地域で古くから親しまれている名木古木の保存など、市民が実感でき、生物多様性の保全に寄与し、地域の良好な景観形成や賑わい創出につながる緑の創出・育成を推進します。

●実績

項目	2021 年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 公共施設・公有地での緑の創出・育成				
緑の創出	7 か所	5 か所	21 か所	36 か所
緑の維持管理	推進	47 か所	160 か所	推進
取組(2) 街路樹による良好な景観の創出・育成				
並木の再生	2 路線	4 路線 (1 路線完了・ 3 路線整備中)	9 路線 (6 路線完了・ 3 路線整備中)	10 路線
空き枿の補植	推進	高木 29 本 低木 788 本	高木 209 本 低木 2,757 本	推進
良好な維持管理	18 区で推進	16,993 本(18 区で実施)	53,131 本(18 区で実施)	18 区で推進
取組(3) シンボリックな緑の創出・育成				
公有地化によるシンボリックな緑の創出・管理	推進	緑の創出:1か所 (整備中 1か所) 緑の管理:2か所	緑の創出:2か所 (整備完了 1か所 整備中 1か所) 緑の管理:6か所	推進 (想定箇所:継続2か所、新規2か所)
公開性のある緑空間の創出支援	推進	1 か所	4 か所	推進 (想定箇所:10 か所)
取組(4) 建築緑化保全契約の締結				
建築物緑化保全契約の締結	制度運用	2 件	52 件	制度運用
取組(5) 名木古木の保存				
名木古木の保存	推進	新規指定:11 本 維持管理助成:82 件	新規指定:66 本 維持管理助成:194 件	推進



公開性のある緑空間の創出支援
(港南区)



名木古木の新規指定(都筑区)



公有地化によるシンボリックな緑の創出
(神奈川区六角橋四丁目公園)

市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 街路樹における良好な維持管理では、対象の街路樹路線を選定し、樹木の目標樹形を決め、計画的な剪定を行うことで、限られた道路空間の中でも形が整った美しい並木を作る取り組みが進み、緑陰の確保や街中の景観の向上につながっています。
- 公有地化によるシンボリックな緑の創出では、1公園(六角橋四丁目公園)が開園しました。また、これまでに本事業で整備した緑化地では良好な芝生を育成するための、質の高い維持管理を行っています。これにより、多くの市民の目にふれる場所での貴重な緑の創出・育成が進んでいます。引き続き、緑の少ない市街地においてまとまりのある緑化用地を確保していく必要があります。
- 名木古木の保存事業では、82本の樹木に対して維持管理助成を行い、樹木所有者の負担を軽減しました。また、今年度は新たに11本の樹木を名木古木に指定し、保存されることで都市の美観風致の維持に寄与しました。利用者からは「古木の維持管理には費用がかかり、助成金があることで維持を継続できている」という声もあり、需要も高いため、助成を必要とする利用者に偏りなく支援できるよう、樹木診断や維持管理等に係る助成金について、助成メニューの適切な活用を促進することが重要です。

◆施策1についての評価・提案

- 多くの市民が目にする機会の多い街路樹では、街並みの美観向上に寄与する良好な維持管理が 18 区で着実に進められています。一方で、地域に即した作業の意図やその取組の効果が市民に伝わりにくいことが課題となっています。市民の実感につながるよう、取組やその効果をわかりやすく伝える工夫が必要です。
- 公有地化によるシンボリックな緑の創出・育成では、六角橋四丁目公園が開園し、良好な芝生を育成するための質の高い維持管理により市民の実感につながる地域の緑が育まれています。土地の取得から整備して公開するまでに長い年月がかかるようですが、事業推進箇所をはじめ、今後も地域で親しまれる緑が創出・育成されていくことを期待します。
- 公開性のある緑空間の創出支援や建築物緑化保全契約の締結、名木古木の保存など、市内では、民有地での緑の創出や保全が、地域の身近な緑として重要な役割を担っています。支援制度がより認知・活用されるよう周知を図り、市民・企業の緑化の取組を促進することを望みます。



施策2 緑や花に親しむ取組の推進

事業② 市民や企業と連携した緑のまちづくり

みどり税

●事業概要(計画書から抜粋)

緑あふれる魅力的な街をつくるためには、市民や企業と連携した取組が不可欠です。地域が主体となり、地域にふさわしい緑を創出する取組など、緑の創出・育成に積極的に取り組む市民や企業を支援し、市民の生活の身近な場所で、緑や花に親しむきっかけづくりを推進します。

また、第33回全国都市緑化よこはまフェアなど、これまで多くの市民や企業の協力で展開された各区での緑や花に親しむ取組を、引き続き推進します。

●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 地域緑のまちづくり				
地域緑のまちづくり	新規6地区	新規7地区	新規15地区	新規30地区
取組(2) 地域に根差した緑や花の楽しみづくり				
緑や花を身近に感じる各区の取組	18区で推進	18区で推進	18区で推進	18区で推進
地域の花いっぱいにつながる取組	推進	推進	推進	推進
取組(3) 人生記念樹の配布				
人生記念樹の配布	8,000本	7,423本	20,110本	40,000本配布



創出された民有地の緑化
(金沢区六浦台地区)
【地域緑のまちづくり】



緑化活動(花壇の花植え)
(港北区綱島西地区)
【地域緑のまちづくり】

●事業概要(計画書から抜粋)

次世代を担う子どもたちが緑と親しみ、感性豊かに成長できるよう、子どもが多く時間を過ごす保育園、幼稚園、小中学校を対象に、施設ごとのニーズに合わせた多様な緑の創出・育成を進めます。緑の創出にあたっては、子どもたちと生き物とのふれあいが生まれるような空間づくりに取り組みます。

●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成				
緑の創出	20 か所	47 か所	131 か所	100 か所
緑の維持管理	推進	102 か所	337 か所	推進



園庭の芝生化
(青葉区荏田北保育園)



保育園でのビオトープ整備
(港北区港北保育園)



校庭芝生の維持管理
(青葉区鉄小学校)



校庭・園庭芝生の育て方講座
(保土ヶ谷区保土ヶ谷公園)

●事業概要(計画書から抜粋)

第33回全国都市緑化よこはまフェアには、多くの人々が訪れ、緑や花が人を呼び込み、街の賑わいを創出しました。多くの市民が時間を過ごし、国内外から多くの観光客が訪れるエリアである都心臨海部などにおいて、これらの取組を継承し、公共空間を中心に緑や花による空間演出や質の高い維持管理を集中的に展開し、街の魅力や回遊性の向上・賑わいづくりにつなげます。

●実績

項目	2021年度		3か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 都心臨海部等の緑花※による魅力ある空間づくり				
緑花による空間づくりと維持管理	推進	14か所	15か所	推進

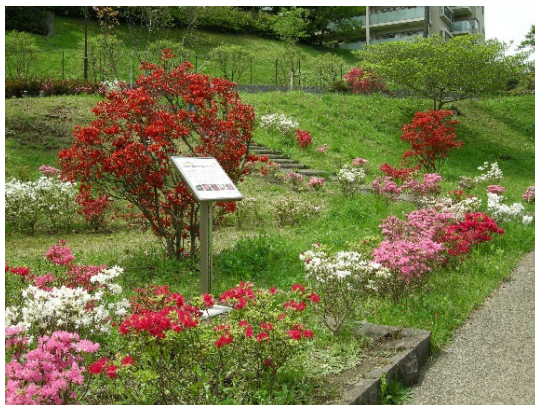
※緑花(りよっか)とは・・・樹木や芝生などの「緑」と四季折々の彩(いろどり)としての「花」を組み合わせて植栽することで、街の魅力形成や賑わいづくりを行うものです。



緑花の維持管理
(中区山下公園)



緑花の維持管理
(中区新港中央広場)



花の名所づくり
(港南区久良岐公園)



主要な駅前での緑化
(港北区新横浜周辺)

市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 地域緑のまちづくり事業では、新型コロナウイルス感染症に対応するため、地域団体の活動が難しい状況を鑑みて、提案団体への個別事業説明を実施しました。提案団体には、地域緑化計画策定に向けた支援を行い、2021年度は7団体が選考を通過しました。市民生活に身近な多くの地区で、こうした緑のまちづくりの機運が高まっていると感じています。また、協定締結期間が終了する団体からも、活動をきっかけとして地域に緑や花が増えたという喜びの声や、まちなかの緑化を通じてこれまで交流のなかった高齢者と子どもなど、地域での新しいつながりが生まれたなどの声が寄せられました。一方で、協定期間終了後に助成がなくなることで、活動規模が縮小する団体もあるため、外郭団体の事業も含め、活用可能な支援を案内し、つないでいくことも重要です。
- 子どもを育む空間での緑の創出・育成では、保育園や小学校等で園庭・校庭の芝生化を進めています。青々とした芝生に寝転がったり、側転などの運動をしたり、子どもたちが芝生ならではの過ごし方をしています。またビオトープや花壇づくりを通して、生きものに触れる機会が増えています。学校では生活科や総合学習などでも効果的に活用されています。
- 緑花による空間づくりにより、山下公園や港の見える丘公園、日本大通りなど、都心臨海部等で、緑や花による街の魅力や賑わいづくりを進めています。また都心臨海部に加え里山ガーデンなど、ガーデンネックレス横浜として市内外へ発信し多くの市民や来街者に楽しんでいただくことができました。18区での取組などと合わせて、ガーデンシティ横浜の魅力を伝える取組を続けています。

◆施策2についての評価・提案

- 地域緑のまちづくりでは、コロナ禍での団体の活動の難しさに向き合い、計画策定のためのサポートを丁寧に行ったことが、目標を上回る実績につながったと評価します。協定終了後の支援など、引き続き団体の声に耳を傾けながら、活動の継続につながる仕組みを踏まえつつ、支援が充実することを期待しています。
- 保育園・幼稚園・小学校での緑の創出・育成は、すでに5か年の目標を超える実績となっており、子どもたちが緑に親しむ空間づくりが広がっています。今後も緑に親しむきっかけをつくり、創出された緑が維持されていくよう、ニーズをくみ取りながら支援を工夫していく必要があります。
- 人生記念樹の配布は、様々な市民が緑を育むきっかけとなる取組です。取組の認知につながる周知方法の工夫や、市民ニーズに応じた樹種選定など進めてください。
- 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくりが広がっています。今後は、創出・育成された空間を核としながら、地域の緑花の取組と連携して市民、企業とともに盛り上げ、横浜ならではの緑や花がシティブランドとして市内外へのアピールにつながる取組に一層発展していくことを期待しています。

「緑をつくる」施策を検討する部会 部会長コメント

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくるでは、緑化フェア以降続く、緑と花のあふれる横浜をバックアップすべく、街路樹の計画更新や校庭の芝生化など、市民の皆様の眼に見える緑化を続けてきました。街路樹などの美しい樹形を目指した剪定などは、実際に成果がでるまで少し時間がかかるかと思えます。一方、地域緑のまちづくり事業では、コロナ禍で実施が難しいところもありながら、順調に市内に浸透し、緑や花の活動を通じたコミュニティの活性化の成果がでているように思えます。この事業は、横浜みどり税ならではの、他の地方自治体には中々類似の事業ができないものです。横浜みどり税が、緑や花を増やすだけでなく、市民の方の心を癒し、活力を生んでいることはとても嬉しいことです。また、臨海部の緑化など、緑化フェア以来、すっかり横浜は、「薔薇の美しい街」のイメージが定着し、新住民の増加にも一役買っているのではないかと思います。国際園芸博覧会に向けて、ますます市民と企業、行政の連携した緑づくりを続けて欲しいと思えます。

池邊 このみ



(4)効果的な広報の展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開

●事業概要(計画書から抜粋)

取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者理解されるとともに、緑を楽しみ、緑に関わる活動に参加していただけるよう、戦略的な広報を展開します。

●実績

目標	2021 年度実績	3か年実績
広報よこはま等の広報紙への記事掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・市版:3件(9月、10月、3月号) ・区版:9件 (西区版10月号、旭区版4月号、緑区版5月号、都筑区版5月号、1月号、戸塚区版11月号、3月号、瀬谷区版5月号、10月号) ・季刊誌みどり 1件 ・かんきょう横浜 3件 ・こどもタウンニュース(11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市版:のべ10件 ・区版:のべ26件 ・その他広報紙:のべ9件
実績リーフレット作成、自治会・町内会への説明や回覧	<ul style="list-style-type: none"> ・市連会、区連会での実績報告(10月) ・実績リーフレット等の単位自治会・町内会長配布(10月) ・実績リーフレット等の区役所やPRボックスでの配架(10月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市連会、区連会での実績報告 ・町内会等での回覧 ・実績リーフレット等の単位自治会・町内会長配布 ・実績リーフレット等の区役所やPRボックスでの配架
広告、動画等の各種メディアを活用したPR	<ul style="list-style-type: none"> ・PR動画の制作(2件)、 ・横浜市役所アトリウム及び18区役所等で動画放映(4月～3月) ・交通広告の動画放映(6～7月、11月) (JR横浜線、市営地下鉄(ブルーライン・グリーンライン)、市営バス(3営業所)) ・YouTube動画掲載:6件 ・地域情報webへの記事掲載(11月) ・日産スタジアムへのPR看板の掲出 ・横断幕の掲出(動物園、水再生センター、ウェルカムセンター等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市役所アトリウム及び横浜市役所デジタルサイネージ動画放映 ・18区役所で動画放映 ・交通広告の掲載(市営地下鉄ブルーライン・グリーンライン・JR横浜線・市営バス3営業所、京浜急行電鉄、東急東横線、相鉄線、みなとみらい線) ・YouTube動画掲載 ・地域情報webへの記事掲載 ・市営バス・公用車等へのPR用ステッカーの貼付掲載 ・日産スタジアムへのPR看板の掲出 ・横断幕の掲出(動物園、水再生センター、ウェルカムセンター等)

ホームページの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・制度やイベントの募集案内(毎月) ・イベントや体験スポット紹介、制度紹介ページの新設(9月) ・実績報告書掲載(10月) ・計画関連動画の掲載(11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページの更新(実績報告書、計画関連動画の掲載等)
メールマガジンやソーシャルメディア等による情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・「横浜みどりアップ計画メールマガジン」の発行(毎月) ・ツイッターの発信(横浜 GO GREEN @yokohama_kankyo) 	
緑に関するイベントでのPR	<ul style="list-style-type: none"> ・スプリングフェア(4月) ・春の里山ガーデン(3~5月) ・農と緑の感謝デー(11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントブース出展:のべ11回
取組に基づいて実施したことを示す現地表示(プレート)	<ul style="list-style-type: none"> ・約1,300枚の公園花壇への現地表示プレートの設置(3月~) ・都心部の公園花壇・里山花壇への現地表示プレートの設置(3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組実施箇所での現地表示看板の設置 ・工事看板への表示 ・市民・ふれあいの樹林の案内板へのロゴステッカーの掲示

※市民推進会議による広報企画としては、広報誌「Yokohama みどりアップ Action」第5号、第6号及び「森づくり体験会」の案内チラシを発行(詳細は8頁「③広報・見える化部会」参照)



広報よこはまへの取組実績の記事掲載
(市版 10月号)



こどもタウンニュース
(令和3年11月発行)



PR動画を活用した広報
(横浜市役所アトリウム)



市営バス車内での動画放映



横浜みどりアップ葉っぱーが解説する
計画紹介アニメーション



農と緑の感謝デー(令和3年11月)



公園花壇での現地表示プレートの設置
(港北区小机町第二公園)

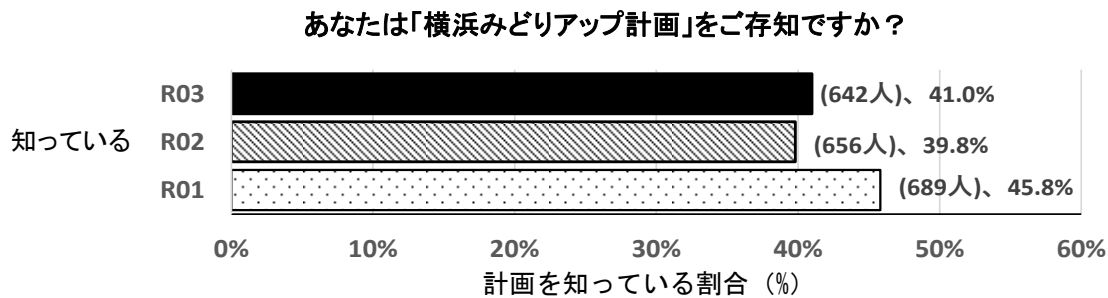


ガーデンネックレス横浜と連携した現地表示板
(里山ガーデン)

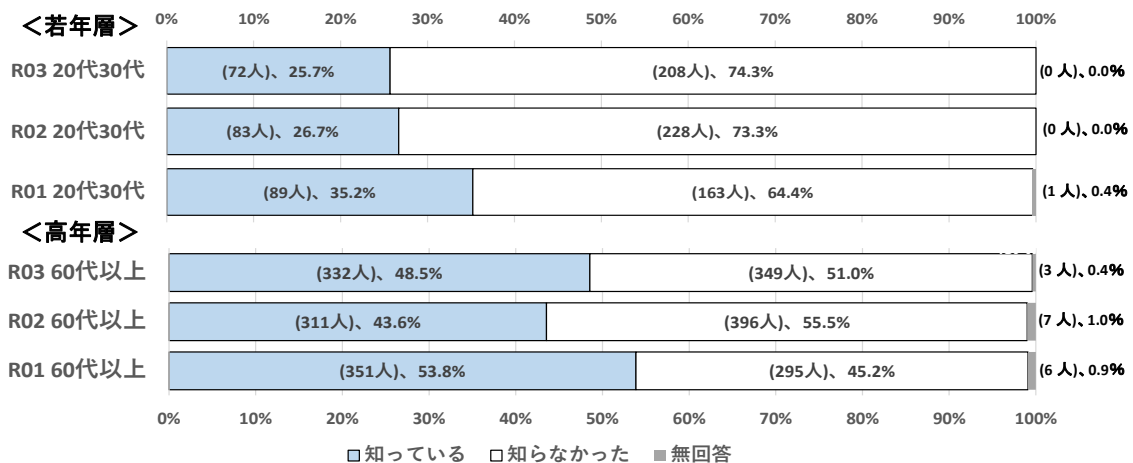
Q.「横浜みどりアップ計画」をご存知ですか？

計画を知っている割合は40%前後で推移。

2021年度は、41.0%が知っていると回答



計画を知っている割合は、高年層で高く、若年層で低い傾向が続いている。



※「知っている」は、「取組内容を知っている」、「あることを知っている」、「名称を見たことや聞いたことがある」の計

令和3年度「横浜みどりアップ計画認知度調査」の調査結果より

市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 横浜みどりアップ計画の実績については、リーフレットを作成し自治会・町内会へ説明を行うほか、広報よこはま市版に記事掲載を行い、広く市民へ実績が伝わるよう努めました。
- また、マスコットキャラクターが計画を解説するアニメーション動画を制作し、YouTubeへの掲載や、緑や花が美しく育っているイメージ動画を横浜市役所アトリウムで放映したほか、18区役所や庁舎内のデジタルサイネージ、電車やバスの車内広告で放映を行い、映像による横浜みどりアップ計画の取組成果をPRしました。
- 公園愛護会の皆さんが植えた球根ミックス花壇に市内約1,300枚の現地表示プレートを設置するとともに、横浜みどりアップ計画の取組がより多くの方の目に留まるよう、SNSやホームページなどを強化していくなど、多様な手法による広報を進めています。

◆施策についての評価・提案

- 広報よこはまの定期的な記事掲載を行うことで、認知度向上が見込まれます。また、子ども向けの広報紙などに記事を掲載することは、子どもだけでなく親にも情報共有できるため、より幅広く広報が可能となります。引き続き認知度向上に資する広報を継続してください。
- 事業実施場所での現地表示は、計画の成果を実感できる広報です。現地表示に二次元バーコードを記載することで、活動している公園愛護会について簡単に知ることができ、身近なみどりへの理解が一層深まります。引き続き二次元バーコードを活用した現地表示を進めるとともに、樹林地や農地にも二次元バーコードの記載を広げることを検討してください。
- マスコットキャラクターを用いた計画の解説アニメーションを新たにYouTubeで発信する取組や、花や緑の映像による庁舎内デジタルサイネージでの放映、幅広く市民が目にする電車やバスの車内広告による広報の取組を評価します。
- 計画を知っている割合は40%を超えていますが、若年層では30%を割っています。紙媒体に限らず、引き続き映像やSNSなど若年層が認知しやすい広報ツールを積極的に取り入れることを期待します。また、広報・見える化部会の提言を踏まえて配布した「森づくりボランティア活動証明」は若い世代の参加者を促すうえで有効と考えられます。参加者が更に新たな参加者を生み出すような展開が期待できるよう工夫して取り組んでください。
- コロナ禍において制約がある中、ガーデンネックレスなど開催できたイベントを効果的に活用し、広報に取組んだことを評価します。
- 広報・見える化部会で市民委員が主体となって発行している「みどりアップAction」のように、より多くの市民や事業者に計画への理解を進めるため、市民目線で事業や取組みについて継続的に発信することは、大変意義があります。この視点を生かした広報の展開を期待します。

広報・見える化部会 部会長コメント

広報・見える化部会は、公募市民委員が中心となってみどりアップ計画の取組を分かりやすく広報する役目を担っています。これまでのみどりアップされた緑地を訪ねてみよう、活動してみよう等、Action(行動)までを目指した広報誌「Yokohama みどりアップ Action」の発行も3年目となりました。各号の市民委員の目線での取材では、各所で皆さまの生き生きとした笑顔での活動を知ると同時に、問題点や今後の課題、意向等を伺いました。それを踏まえ、記事の構成にも検証を重ね、記載には二次元バーコードを入れながらみどりアップ計画の情報を効果的に提供できるようにしました。

みどりアップ計画に対する認知度が低い若い世代へのアピールとしては、「森づくりボランティア活動証明書」を提案しましたが、今後は証明書の具体的な活用方法を提案したいと思います。

高田 房枝



5 市民推進会議委員名簿

横浜みどりアップ計画市民推進会議 名簿(2022年10月時点)

(50音順・敬称略)

役職	氏名	区分	備考
	池島 祥文	学識経験者	横浜国立大学大学院 准教授
	池邊 このみ	学識経験者	千葉大学大学院 園芸学研究科 教授
	石原 信也	関係団体	横浜商工会議所 産業振興部長
	今関 美津枝	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
	岩本 誠	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
副座長	内海 宏	学識経験者	(株)地域計画研究所 代表取締役
	奥井 奈都美	公募市民	
	小野 英明	関係団体	横浜農業協同組合 営農部長
	国吉 純	公募市民	
座長	進士 五十八	学識経験者	東京農業大学名誉教授・元学長
	関根 宏一	関係団体	横浜市町内会連合会 幹事
	高田 房枝	公募市民	
	高橋 秀忠	公募市民	
	野渡 リツ子	関係団体	横浜市南西部農業委員会 委員
	村松 晶子	公募市民	
	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

<施策別専門部会 名簿>

「森を育む」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
	岩本 誠	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
	奥井 奈都美	公募市民	
	関根 宏一	関係団体	横浜市町内会連合会 幹事
	高橋 秀忠	公募市民	
部会長	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

「農を感じる」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
	池島 祥文	学識経験者	横浜国立大学大学院 准教授
部会長	内海 宏	学識経験者	(株)地域計画研究所 代表取締役
	小野 英明	関係団体	横浜農業協同組合 営農部長
	野渡 リツ子	関係団体	横浜市南西部農業委員会 委員
	村松 晶子	公募市民	

「緑をつくる」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
部会長	池邊 このみ	学識経験者	千葉大学大学院 園芸学研究所 教授
	石原 信也	関係団体	横浜商工会議所 産業振興部長
	今関 美津枝	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
	国吉 純	公募市民	
	高田 房枝	公募市民	

広報・見える化部会 名簿

(50音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
	奥井 奈都美	公募市民	
	国吉 純	公募市民	
部会長	高田 房枝	公募市民	
	高橋 秀忠	公募市民	
	村松 晶子	公募市民	
	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

6 市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきたなかで感じたことや、生活の中で、緑について日ごろ各委員が感じたことについて、委員の皆さまからもコメントをいただきました。

池島委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）

2021 年度もコロナ禍が継続していましたが、ワクチン接種も始まり、少しずつ、対面でのコミュニケーションが戻ってきた時期でもあったと思います。ニューノーマルな生活様式も定着してきたため、引き続き、横浜市の「みどり要素」である公園・緑地、森林・樹林地、農地は市民にとって憩いの空間として利用されてきました。

そうした側面はありつつも、それでも、農地は生産者の高齢化に伴い、たとえば、相続発生を通じて、着実に消失していきます。森林・樹林地はこの横浜みどりアップ計画のなかで、緑地保全制度に基づく指定により土地所有者へ優遇措置を講じたり、土地所有者の不測の事態への対応として買い取りを進めたり、直接的な保全が取り組まれています。こうした措置を農地にも適用できないか検討する時期を迎えているのではないのでしょうか。

石原委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会 所属）

コロナ禍で様々な活動が制限される中においても、「2019～2023 年度横浜みどりアップ計画」は、多くの方々のご理解とご協力により着実に実行されています。

コロナの影響により社会全体に閉塞感が募るこうした時こそ、人々の心に癒しや活力を与える「みどり」の持つ力は大変貴重な役割を担うものであると改めて感じる事が出来ました。

推進会議委員を務めて 3 年が経過しましたが、本計画の理念である「みんなで育むみどり豊かな美しい街 横浜」の更なる実現のために、横浜のみどりを守り・育むといった意識を一人でも多くの市民の皆様を持っていただけるよう、今後も活動を続けて参りたいと思います。

今関委員コメント(「緑をつくる」施策を検討する部会 所属)

「緑をつくる」ために校庭の芝生化や公園に花壇をと活動が広がってきました。しかし、つくるより減らさないのも大切では？街なかの緑も手入れできずに土がアスファルトで固められ、隙間からネコジャランが種をとばしたりしています。公園の花壇も1年草を植え替えるのではなく、開花時期の異なる宿根・球根・こぼれ種でランダムに植え、ワイルドガーデン風にして不要な草の芽や枯れ枝を土に返してできるだけ手間を減らさないと続けていけないのでは。もっと草花のことを皆に知ってもらうことが大切です。

岩本委員コメント(「森を育む」施策を検討する部会 所属)

「市民とともに次世代につなぐ森を育む」という計画の柱の中で、最近特に感じていることに、森の維持管理活動中等、親子づれの方々、来園する市民の皆様が年々増加している事を実感しております。来園者が自主的に散策路の枯枝を除去したり、ユリの群生地が増える中でユリが倒れているのを棒で立ててくれたり、花壇の除草をしてくれたり…、森に対する愛情を感じます。また、広場等でのコミュニケーションの場所として、森の中でのお互いのあいさつもよくできている事をみかけます。維持管理活動の中で心身ともにすがすがしい気持ちになります。こういう事等が計画の理念である、「みんなで育むみどり豊かな美しい街 横浜」なのかと思います。来園者の皆様と横浜みどり税についての話題も時々出る中で継続的に計画していただきたいという意見が多くあります。今後もみどり税は必要だと思えます。

奥井委員コメント (「森を育む」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属)

コロナ禍において、市民の生活はより一層緑に癒しを覚えるようになり、公園や市民の森といった、身近な緑に親しむ機会が増えました。緑は多ければいいという訳ではなく、きちんと維持管理がされ質が保たれてこそ、人々の癒しとなる景観を保ち、安全に楽しむことができ、また防災・減災といった点でも重要な役割を持ちます。

市民推進委員として活動して3年。現地視察や広報の取材などを通して、良好な森を育み継承していくために、愛護会や森づくりボランティアの方々の活動がいかにか大切なものかを知り、感謝いたします。それとともに、市民のみなさんにも横浜みどりアップ計画によって守り育まれている豊かな緑と農と、緑や花をより身近に感じていただけるよう、わかりやすく発信をしていきたいと思えます。

小野委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）

新型コロナウイルス感染拡大が終息しない中、自宅で過ごす時間が、いまだ増える傾向にあり、家庭菜園や花の植栽など「農」や「緑」に触れる機会が増えています。ウィズコロナを展開していく上で、私自身、市民の森の草刈りや消防団による防災訓練など地域貢献活動を徐々に進めています。

市民推進会議では、JA の職員として現場の実態を正確且つ詳細にお伝えすることで、些少なりとも各委員皆様の参考になれば幸いです。

横浜市内の農地や農業がつくり出す「農」の景観は多様化しています。耕作放棄地は市内で 160ha 以上あると言われており、有効活用できていないのが現状です。高齢化や担い手不足等により、農地の所有者にとっても不本意ながら耕作放棄地になってしまっていることも少なくありません。その実情をしっかりと把握し、対応していく必要があると考えます。

緑地保全制度は重要な取組と考えますが、人が手を加え「里山化」を実現させると有害鳥獣被害が拡大し、農業意欲をなくす担い手が増えると同時に、耕作放棄地の増加を止めることができません。森林と住宅地の環境整備は、今後も重要な課題であり、みどり税の有効活用をお願いしたいと思います。

国吉委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

観光都市でもある横浜のみなとみらい近辺では、景観と調和した美しい花壇がより一層横浜市的美観イメージを高め、横浜市外の方々からも話題にもなっているようです。今年は市民の生活圏内の公園や駅周辺などの花壇の整備や植栽などが充実してきており、みどりアップ計画の看板も目立つように設置されるようになりました。花を通じてのコミュニティガーデン活動の活発化が「市民に身近な緑」を意識、そして大切にしていこうという動きにも繋がることでしょう。今後も引き続き応援していくべき重点施策だと思えます。

また街の景観を大きく左右する街路樹も街の成長とともに、大木化し通行を妨げるほどの成長が見られ、さらに昨今の温暖化により病害虫の被害が見られるものも増えてきました。これに対しても少しずつ維持管理、再生作業が計画的に進められている実績を見ると、より一層安心して暮らせる街づくりがなされていることに大変満足感を得ています。

関根委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会 所属）

市民の皆様から等しく横浜みどり税が徴収され、市の発展のために使われていることに対し、以前より少なからず関心を持ってきました。

この度、委員として細かく、今までの市の考え、取組・成果そして関係ボランティアの皆様のご活動・努力も知ることが出来ました。

今まで取り組まれてきた結果に敬意を表します。

花・水を含め森林に代表される自然は人の心を穏やかに、豊かに、大きく前向きに活性化させる作用を有しています。

森を育むことで、横浜市民全体の心を豊かにし、とりわけ子どもたちの心の発達、成長に大きくかかわっていくと思われまます。

未来の都市形成の見本となるような横浜市として、この事業を大きく発展させることが大切かと思ひます。その為には、横浜市全域での森や緑そして花の創出を如何にしていくかということが、これから横浜市が、市民が心豊かに生活できる、世界に誇れる街に形成していくために必要であると思ひます。

高田委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

2021年度の「市民が実感できる緑や花をつくる」計画の柱3について、目標に向かって順調に推進された結果が現れ、評価できました。

個人的には、2013年から「地域緑のまちづくり事業」の助成金を受けながら、国道沿道の企業の駐車場等を緑化してきました。住民と一体となって緑化計画を立て、横浜市との協定が終了後も月例の除草や清掃、簡単な維持管理、イベント等を継続して10年が経ちます。樹木管理の助成金はありませんが、現在では沿道の緑化したどの企業も高木から低木までの剪定費用を自社で捻出し樹形を維持しています。みどりの沿道まちづくりのきっかけに助成金が果たした役目は大きかったと実感しています。

今後も、多くの市民、企業の参加しやすい仕組みと、その後のみどりが楽しく継続できる方策等のアプローチを期待します。

高橋委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

みどり税をベースとする横浜みどりアップ計画の各事業・取組は、コロナ禍という制約の中でも、工夫しながら推進されております。

最近では市民の森など樹林地を散策する人が増えています。心配なのは、市民の森でもナラ枯れが発生しており、枯死木の倒壊や枝の落下の危険があります。特に被害木の近くには猛毒性のカエンタケが発生することも多く、森を散策する市民向けに分かり易い注意喚起をする必要があります。

2021年度の環境に関する市民意識調査では、SDGsという言葉の認知度は76.1%でした。みどりアップ計画の取組がより多くの市民、特に若年層の目に留まるようにeye-catcherとしてSDGsアイコンを広報コンテンツにつける良いタイミングと考えます。「横浜みどりアップ計画はSDGsに貢献しています」ので、効果的な広報の展開を期待いたします。

野渡委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）

みどりアップ計画のおかげもありまして緑の環境も整い、住み良い街になっています。樹林地、農地、公園など、それに伴いボランティアのみなさんとの交流と緑の美しさには癒されます。

都市農業保全にもみどり税が活用され助けられております。毎日手のぬけない作業の積み重ねですが、地産地消できるのが都市農業の利点だと思います。

それでも農業従事者は半減する危機を迎えておりますが、特定生産緑地制度も延長され、環境保全や防災なども更新できます。

人が自然に接する大切さ、生物の多様性にと地球によい環境になれば良いと思います。相続のたびに緑が減っていかないように継続し、守り担っていきたく思います。

村松委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

大都市でありながら農業が残る点で、横浜市は全国的に非常にユニークです。横浜ならではの都市農業のあり方として、市民団体がボランティアで農家を手伝う農園を提案してきました。現在取り組まれている区分された市民農園や単発的な援農に加えて、農地をまるごと継続的に市民が手伝う形の農園で、実例も見られるようになっていきます。コロナ禍で畑仕事に興味を持つ市民が増えていますし、ウクライナ危機で食料自給と地産地消への関心も高まっていますが、農地は減り続けています。農地と農業を守るため、農業市民団体づくりや農家とのマッチングなど多くの難しい課題があるとは思われますが、市独自の新しい農園を期待します。

7 市民推進会議広報誌

「YokohamaみどりアップAction」

- 第1号（2019年11月発行）
市民の森愛護会
（緑区 鴨居原市民の森）

- 第2号（2020年2月発行）
めぐりツアー
（泉区 横山四季彩園）
（瀬谷区 相澤良牧場/オーガスタミルクファーム）
（瀬谷区 グリーンファーム あい菜フローラ店）

- 第3号（2021年2月発行）
オープンガーデン
（港北区 園芸ボランティアみらい）

- 第4号（2021年3月発行）
市民の森
（緑区 ながつたしゆく長津田宿市民の森）

- 第5号（2021年11月発行）
農園付公園
（泉区 岡津町ふれあい公園）

- 第6号（2022年2月発行）
地域緑のまちづくり事業
（西区 みなとみらい21新港地区運河パーク花時計）

「森づくり体験会」の案内チラシ（2021年11月発行）

Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.1
2019.11

次世代へつなぐ
鴨居原市民の森



横浜みどりアップ計画

Special Interview

15周年を迎えています元気にも!

緑区にある鴨居原市民の森。約2haのこの森は、竹林が広がる北地区とクヌギやコナラの雑木林からなる南地区で構成されています。森の歴史や魅力を知り尽くす、鴨居原市民の“森の長”にお話を伺いました。

文：奥井 奈都美、高橋 秀忠



🍃 ごみの山から、宝の森に？

その昔、ここは不法投棄された自動車の古タイヤや粗大ごみの山でした。それをどうにか「みんなで綺麗な森にしたい!」と鴨居第八地区自治会長が声をあげ、自治会役員を中心とした有志のメンバーが集まり、森の再生が始まりました。そこで結成されたのが「鴨居原ふれあいの森愛護会」(後の「鴨居原市民の森愛護会」)です。平成16年に愛護会が発足し、翌17年に市民の森が開園してからずっと、地域の皆さんに愛される森を目指して、15年間様々な活動を行ってきました。

🍃 親子で参加したくなる楽しいイベント

“子どもたちが故郷ふるさととを感じる森づくり”をスローガンに、春の竹の子掘りや夏のソーメン流しなど、親子で参加できるイベントを季節ごとにたくさん行っています。

森からの贈り物に触れて、そして食べて美味しい! イベントには、地域の住民から区境を越えて隣町の人たちまで、毎回たくさんの参加者で賑わっています。「この森が20年、30年と

続いてほしい」と同愛護会の菅原会長。みどりアップ計画で保全した森を、地域の人がみんなで大事に育てていて、森の恵みが子どもたちに受け継がれていることを感じました。

セカンドライフは愛護会で



活動の中核メンバーは50人程度。それも88歳を筆頭に、70歳以上が約9割を占めています。「月2回の定例活動と、それ以外にも市民の森に隣接する民有地の『ふれあい農園』で作業もしており、けっこう忙しいが、『できる事をできるだけやる。無理はしない』がモットー」「午前中の短時間作業を心掛け、楽しんでいる」と阿部名誉会長と菅原会長。力仕事の多い森の作業は男性が中心ですが、農園の作業は主に女性の得意分野。それがきっかけで、女性会員が増え、今ではメンバーの4割が女性なのだとか。農園で採れた野菜をみんなで山分けしていただくのも、楽しみの一つですね。森で体を動かし、土に触れ、仲間とお喋りを楽しみながらやる、これらが、愛護会の皆さんが元気でいられる秘訣なのでしょう。活動に参加したい!と思えるような、幅広い世代の笑顔と活気あふれる森でした。

Best Point

ここが魅力! 鴨居原市民の森



多様な生き物に出会え、季節の移ろいを実感できる市民の森。イベントには多くの世代の人が集い、笑顔があふれます。そんな鴨居原市民の森の南地区をご紹介します。



3 鎌倉古道沿いの「ハンカチの木広場」

入り口では、花壇と開園記念に植えられたハンカチの木、キンモクセイ、シダレザクラなどが、訪れた皆さんを迎えます。



1 樹木に囲まれた「ふれあい広場」

竹の間伐材を利用した「ソーメン流し」などのイベントを開催し、地域のたくさんの方との“ふれあい”を感じる広場です。



2 市民の森と共存共栄「ふれあい農園」

市民の森に隣接する民有地で、愛護会が地主さんの協力を得ながら農園を開始。野菜を作り、焼き芋大会などで振る舞っています。



ふれあい農園を始めたら女性の会員が増えました!

鴨居原市民の森愛護会

市民の森ってなに?

横浜市独自の、緑地を保全する制度の一つで、緑を守り育てるとともに、山林所有者の方々のご協力により、市民の憩いの場として利用されています。

市民の森愛護会ってなに?

市民の森の日常的な維持管理をされている地域住民の団体です。平成31年4月までに開園した市民の森39か所で、31の愛護会が活動しています。



ここにみどり税

横浜みどりアップ葉っぱ

みどりアップ計画では市民の森などの制度によって緑の保全を推進中。市が森を買い取る時や愛護会の維持管理作業にはみどり税を使っています。

市民の森に 遊びに行こう!

中面でご紹介した鴨居原市民の森以外にも、市内では平成31年4月1日現在39箇所の市民の森が公開されています。

まずは、近くの森に散歩に行ってみませんか?

市民の森利用ルール

- ✓ 利用時間は日の出から日の入りまで。
- ✓ 植物などを持ち帰ったり、持ち込んではいけません。
- ✓ ごみは持ち帰りましょう。

森のガイドマップ 無料配布中!

各市民の森のガイドマップを市民情報センター(市庁舎1階)、各区役所広報相談係、環境創造局みどりアップ推進課で無料配布しています。



ダウンロードは
こちらから!



私たちが「みどりアップACTION」をつくっています!

2019年度から横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会の委員は新メンバーとなりました。横浜のみどりの現状を市民の視点で捉え、さらに問題点や解決方法を取材し、みどりを点から線、面へと繋ぐために、誰もが行動できる様々なきっかけ、情報を皆さまにお伝えしていきます。

(写真左から国吉、高橋、村松、望月、高田、奥井)



横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

YOKOHAMA みどりアップACTIONとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のACTION(行動・活動)を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップACTIONについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくは
こちら!



YOKOHAMAみどりアップACTION 第1号

(旧みどりアップQ)(市民推進会議広報誌第36号)令和元年11月発行
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局)
TEL:045-671-4214 FAX:045-641-3490
E-mail:ks-mimiplan@city.yokohama.jp



Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.2
2020.2

笑顔あふれる、
農との出会い。



撮影：泉区和泉町

横浜みどりアップ計画



1. 2. 農家の横山さんがお芋の掘り方を説明 3. 焼き芋を試食 4. 参加者全員で集合写真 5. 親子で芋掘り 6. 牛舎の乳牛 7. 生まれたての子牛をのぞき込む子どもたち

横浜で農にふれる、 おいしさを知る「あぐりツアー」



『みなと』のイメージが強い横浜ですが、実は農地がたくさんあり、農産物もたくさん生産されています。そんな横浜の姿を知り、採れたてのおいしさを味わえるイベント「あぐりツアー（横浜農業探検隊）」に参加しました。

文：村松晶子、国吉純

畑で芋掘り体験



今回のツアーは、サツマイモの収穫・牧場の見学・直売所での買い物という内容で、10月に泉区・瀬谷区で行われました。まず横山四季彩園の見晴らしの良い広い畑で芋掘り。ここは横浜市独自の制度「農業専用地区」の畑です。農園主の横山拓巳さんは四代目の若い専業農家さん。ハワイに2年住んで日本の四季の美しさに気づき、日本の自然を感じられる農業に打ち込んでいます。はじめに親子の体験用に準備された畝の前に集まり、説明を聞き、さあ芋掘りです。思ったより大きいお芋も多く、手で懸命に土を掻き出しながら夢中で掘っていました。「土いじりが楽しい」とみんな笑顔。収穫後には、「つぼ焼き」という専用器具で焼いたお芋がふるまわれ、「こんなおいしいお芋食べたことない!」との声が上がりました。

牧場と直売所の見学



次に向かったのは相澤良牧場。約40頭の乳牛を飼育しています。初めて見る牛に子どもたちがびっくりしていました。7年

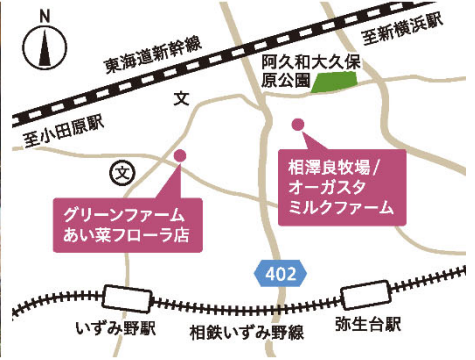
前から牧場の牛乳だけを使ったソフトクリームを製造し、カフェを開業。6次産業化*することで、経済的に好転したそうです。子どもたちが思わず笑顔になる、優しいミルク味が印象的でした。市街地の牧場なので、近隣との共存が気になりましたが、学校給食への提供や、児童の乳搾り体験などに積極的に取り組んでおり、むしろ地域のシンボルとなるような牧場だと思いました。最後はグリーンファームあい菜フロア店。花の苗や野菜が並んでおり、地元の新鮮な野菜の買い物をしました。

農とふれあう場づくりと大学との協働

今回のツアーは、横浜市環境創造局と農的資源を活用した地域活性化や環境に配慮した取組をすすめることを目的として、連携協定を結んだフェリス学院大学の学生さんと佐藤輝教授が企画運営に参加しました。当日は、学生さんがツアーガイドとして、クイズやインタビューを交えながら進行し、農の魅力を柔らかく伝える役割を果たしてくれました。



*農林漁業者が生産から加工・販売までを手掛けること。(1次×2次×3次)



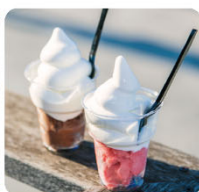
巡った場所をご紹介します



横山四季彩園 (泉区)

菜花、アスパラ菜、トマト、サツマイモなど年間36品目の季節野菜を栽培し、直売所などで販売。横山さんがご用意してくださった「紅はるか」の焼き芋は専用の壺を使い低温で2時間ほどかけて焼いているため、甘くしっとりとしたお味が特徴。※通常は収穫体験は実施していません。

泉区直売所
マップ



相澤良牧場 / オーガスタミルクファーム

約70年の歴史があり、搾りたての新鮮な牛乳で濃厚なソフトクリームなどを作り販売。横浜の酪農家は13軒。横浜の酪農の歴史は古く、日本の牛乳製造販売も横浜が発祥。

- 住所: 瀬谷区阿久和南3-11-11 ●電話: 045-489-6211
- 営業時間: 10:30~16:00
- 休業日: 1月~3月中旬の月曜日・年末年始(3月下旬~12月は無休)

HPは
こちら!



グリーンファーム あい菜フローラ店

総合ガーデニングショップの中にある新鮮な地場野菜が買える野菜直売所。

- 住所: 瀬谷区阿久和南4-8-289 ●電話: 045-360-6887
- 営業時間: 春夏 9:30~18:30 秋冬 9:30~17:30
- 休業日: 1月・2月の水曜日

HPは
こちら!



＼行ってみよう! 体験してみよう!／



収穫体験情報
はこちら!



あぐりツアー
はこちら!



青空市・直売所
はこちら!

ここがみどりアップ計画

計画では、農とのふれあいを楽しめる場づくりが進められています。あぐりツアーは、その取組のひとつとして実施している農産物の生産現場や直売所などを訪れる企画です。一緒に横浜の素敵な「農」を発見しましょう!



現地調査に行ってきました!

市民推進会議では、横浜みどり税を活用した横浜みどりアップ計画の取組について検証することを目的に、現地を視察する調査部会を毎年実施しています。

2019年10月に泉区を訪れました。文：高橋秀忠

横浜みどりアップ 葉っぱ



和泉小学校 1

2年前にピオトープへと再生された校内の「ニコニコ池」は総合学習の場としても活用されています。子どもを育む空間として維持管理するには、地域の方々のサポートが欠かせません。

こはし 古橋市民の森 2 3

20年前までごみが多かった森が再生され、今年4月に市民の森になりました。訪れたときは、台風19号による倒木などで散策路が通れない状況になっており、愛護会の方は市の協力を得て、森の復旧に取り組んでいました。近隣の高齢者宅の庭木の剪定や庭の手入れなどにも大活躍、愛護会の方々は地域に頼られる存在となっています。

和泉町の水田 4

刈り取られた稲の「はさがけ」も見られ、秋の田園風景が広がっていました。

Column

横浜の農と学校連携

横浜みどりアップ計画では地産地消推進の取組の一環として、市民や企業、大学と連携した様々な取組を行っています。例えば、フェリス学院大学の学生は、横浜市と連携して、Instagramで横浜の「農」と「食」に関する写真を投稿する「ハッシュタグ横浜農場キャンペーン」を実施しており、地産地消のPRなどに協力しています。これからの横浜の農には、市民参加が欠かせません。地産地消の推進に生かされるような活動(Action)に熱心に取り組む学生をととても頼もしく感じました。



横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

YOKOHAMA みどりアップACTIONとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のACTION(行動・活動)を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



ご意見・ご感想をお待ちしています!

みどりアップACTIONについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!



YOKOHAMAみどりアップACTION 第2号

(旧 みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第37号) 令和2年2月発行

編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会

発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局)

TEL:045-671-4214 FAX:045-641-3490

E-mail:ks-mimiplan@city.yokohama.jp



Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.3
2021.2

花がとりもつ、
人との出会い。





※撮影時のみマスクを外していただきました。



緑と花でつながる仲間の絆

園芸ボランティアみらいの
皆さんに聞きました!

港北区にある新吉田地域ケアプラザ。敷地内に咲くきれいな花々をお手入れされているのが「園芸ボランティアみらい」です。その熱心な活動の原動力は？大事に育てられている花を見ることができるといえるベストな機会は？取材を通して見てきたのは、緑と花を介して結ばれる、人と人との絆でした。 文：奥井 奈都美、国吉 純

活動歴はなんと18年! 仲間との交流も楽しみのひとつ

園芸ボランティアみらいは、2000年に新吉田地域ケアプラザで開催された、園芸ボランティア養成講座の修了生が中心となり立ち上げたと言った代表の吉岡さん。設立から18年、メンバーひとりひとりが自分のスキルを上手に生かし、地域での大人の仲間づくりを楽しみながら、息の長い活動を続けています。

現在メンバーの平均年齢は80代。『ここで皆さんと会えるのが楽しみ』、『お花がきれいに咲くのが一番嬉しい』とおっしゃっていました。これが元気の秘訣ですね。

活動エリアは広く、ケアプラザのほとんどの植物を、年間を通してお手入れされています。そんな熱心な園芸活動が認められ、様々な賞を受賞しています。

港北オープンガーデンでお披露目



何った季節は秋、奥の花壇には、色とりどりの可愛らしい花が咲いていました。ポチュルカ、コスモス、ニラバナ、etc. 秋の美しい花がこんなにあったとは、と驚きました。皆さん、おしゃべりを楽しみながら伸び過ぎた枝葉をサクサクと手際よく切っていきます。毎年春に開催されている「港北オープンガーデン」に参加されているとのことなので、次のイベントでは是非ここに来て、春の花と皆さんの笑顔に再会したいと思いました。



活動を始められた頃の様子

ここが みどりアップ 計画

緑や花に親しむ市民の盛り上がりを醸成するため、「地域に根差した緑や花の楽しみづくり」を進めています。その取組のひとつとして、港北オープンガーデンの運営を支援し、地域発の緑の活動に寄り添っています。





港北区の職員の方に
聞きました!



※2019年度のオープンガーデンの様子。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み中止となりました。



港北オープンガーデンとは？

転入者の多い港北区において、地域への愛着を深めてもらおうと始まった取組です。2013年から毎年春に開催*され、期間中、会場となっている個人庭や地域の方々がお手入れしている花壇を楽しむことができます。オープンガーデンの企画・運営は、区民ボランティアと港北区役所で組織された「港北オープンガーデン運営委員会」が担っています。ボランティアスタッフに

よる案内所設置や、人気企画のガイドツアーもあり、会場間を楽しみながら歩けるような工夫も。区民の方々に支えられた、地域に根差したイベントになっていますね。お庭のオーナーさんとボランティア、参加者…多様な人たちの出会いの場にもなり、地域の絆が育まれているそうです。緑と花が人にもたらす力を感じました。

港北オープンガーデン 詳しくはこちら▶



やってみようガーデニング ～春の花を楽しむ～

花を置いて楽しみたくなったら、難しく考えず、園芸店などに行って苗を買うことから始めましょう。名前がわからなくても、好きな色の花を選んでベランダやお庭でガーデニングをしてみませんか？蕾が多くて、しっかりとした苗がおすすめです！



葉裏の病気の跡や虫の有無もチェックしておくといいでしょう♪

植え方

- 1 プランターに鉢底石をひと並べする。
- 2 肥料を混ぜた培養土を鉢の半分くらいまで入れる。
- 3 花苗を置く。鉢から1cmくらい下まで土がくるように。低すぎるときは調整する。
- 4 苗の周りに土を入れる。割り箸などで隙間なく土が入るように突く。
- 5 苗の土と同じ高さまで土が入り、苗がぐらつかなくなったら完成。
- 6 花に水がかからないようにたっぷり水やりをする。鉢底から水が流れるのを確認したらもう一度、水が流れるまで水やりをする。



春の花壇やプランターに向く花

春の庭やベランダでは優しいパステルカラーの花色がたくさん出回ります。

- 🌸 青い花：ワスレナグサ、ネモフィラ、ブルーデージー
- 🌸 黄色い花：クリサンセマム・ムルチコーレ、カレンジュラ
- 🌸 白い花：スイートアリッサム、ノースポール、マーガレット
- 🌸 ピンクの花：リナリア、キンギョソウ、オステオスペルマム、etc.



身近な緑、 増えています!!

横浜みどりアップ計画では、今ある樹林地や農地を守るだけでなく、多くの市民の皆さんの目にふれる場所で、緑豊かな空間を新たに作っています。今回は、「シンボリックな緑の創出・育成」の取組として新たに整備された公園をご紹介します！



六角橋四丁目公園

中央に芝生広場があり、眺めがよく、季節の花も楽しめます。シンボルツリーとして芝生広場の中央に植えられている木は、区の木でもある「コブシ」です。まちなかに心地良い空間が生まれました。



所在
神奈川区六角橋 4-720-4

アクセス
横浜駅から市営バス50系統・
神大寺入口行
県営栗田谷住宅前バス停下車
徒歩2分

皆さんの身近な場所にも「新しい緑」があるかも!?
ぜひ、見つけてみてください!

横浜みどりアップ計画

これが
目印!



苗木の数だけ思い出がある 「人生記念樹」

横浜みどりアップ計画では、多くの市民の皆さんが緑をつくり、育むきっかけとなるよう、出生や入学、住宅の新築や購入などの人生の節目の記念に、人生記念樹として苗木を配布しています。思い出とともに人生記念樹を育ててみませんか? インターネットまたは各区の区役所で配布している専用はがきで申し込みます。

区の木などの中から、
お好きな苗木を
選べます!

詳しくは
こちら!



横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくは
こちら!



YokohamaみどりアップAction 第3号

(旧 みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第38号) 令和3年2月発行
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局)
TEL:045-671-4214 FAX:045-550-4093
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp



Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.4
2021.3

森と過ごす
幸せな時間。



横浜みどりアップ計画



市民の森って何？

「市民の森」、聞いたことはありますか？市民の森は横浜市独自の制度により守られた、散策できる樹林地です。実は、土地所有者を始めとした多くの方の支えにより利用できています。今回は、オープンしたばかりの「長津田宿市民の森」を訪ねながら、市民の森についてご紹介します。

文：高田房枝、高橋秀忠、村松晶子



実は身近にあった市民の森

長津田宿市民の森の出入口は民家のすぐ先にあり、街の中にひょっこり現れる印象です。公園と違い門はなく案内板が目印となっていて、日の出から日没まで自由に出入りできます。私たちが散策できるこのような市民の森は市内に47か所*あり、多くは土地所有者と横浜市が契約することで公開されています。こんなに身近なところに森があるなんて、驚く方も多いのでは？



市民の森で見つけた整備の工夫

入口の先には木漏れ日注ぐ樹林地が広がり、街の喧騒から一転、森の精気が感じられます。中は散策路やステージのような広場、野外卓が整備され、親子連れが楽しそうに利用していました。急な斜面地は柵で囲われ安全も確保されています。森の整備にあたっては、その森が持つ景観や特徴を生かせるよう工夫しているそうです。森ごとに異なる表情を楽しみたいですね。



*2021年3月現在。40か所を公開中。





1. 森づくりボランティア体験会 2. クロアゲハ 3. 保全管理計画の打合せ 4. マルバスマシ 5. ウグイスカグラ 6. アカネスミレ 7. 保全管理計画フォローアップ研修
8. 長津田市民の森案内板



森づくりの担い手 やってみよう!

市民の森では、森を良好な状態に保つため「市民の森愛護会」や「森づくり活動団体」として多くの市民が活躍しています。下草刈りから樹木の手入れまで多種多様な活動をしています。森に興味がある方は、はじめてでも気軽に参加できる「森づくり体験会」があるので、森と関わるはじめての一步を体験してみませんか？

森づくりボランティア —森づくり体験会—

美しく様々な生き物が暮らす豊かな横浜の森は、森づくり活動により守り育まれています。手を入れるとこたえてくれる、森の魅力を味わってみてはいかがでしょう。



みんなで考える 保全管理計画

将来にわたって良好な森を保つためには、計画的な管理が欠かせません。市民の森では、愛護会、土地所有者、ボランティアなどの市民と行政、専門家が集まって話し合い、未来の森の姿を描いた「保全管理計画」を作っているそうです。

計画では、林・草地・谷戸・土手などの自然環境面や、生き物の保全・育成や環境学習といった機能面、安全面から区域を分け、区域ごとの管理方法などが決められていました。このようにしてみんなの森がつくれ、保たれているんですね。



まずは訪ねてみましょう やってみよう!

市民による、市民のための「市民の森」、いかがでしたか？市民の森には、夏の朝に広場の木陰で朝刊を読んだり、鳥や植物の観察会、愛護会が開催するイベント（切った竹で流しそうめんやパームクーヘンづくりなど）に参加したりと、色々な楽しみ方があります。市主催の森づくり体験会に参加してみても良いかもしれません。まずは、お住まいの近くの市民の森を探して、公園とひと味違う市民の森を楽しんでみてください！

市民の森ではフィールド マナーを守りましょう!



道からは
はずれない



生きものを
持ち帰らない
持ち込まない



ゴミタバコ等は
捨てずに
持ち帰る



利用時間は
日の出から
日没まで



火・コンロは
使わない



ペットは
つないで

ここにみどり税

市民の森の整備や維持管理、愛護会・森づくり活動団体の支援、保全管理計画づくりなどに横浜みどり税が使われています。

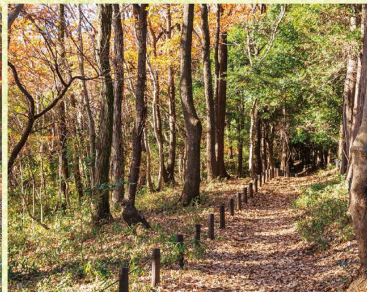


横浜みどりアップ 葉っぴー

2020年4月オープン! 長津田宿市民の森

おのたちらくがん
長津田十景*のひとつ「御野立落雁」すぐ近くにある約3.0 haの森で、日々の散策や自然観察、憩いの場として利用できるエリアと、斜面緑地を保全する樹林保護区(非公開)とがあります。

目を引くのは森の中央にある、まるでステージのような、緩やかな斜面を持った広場です。かつて耕作が行われていた場所を生かして整備されました。



アクセス良好で長津田駅から散歩気分が訪れることができます♪

所在 横浜市緑区長津田町2365-2

アクセス JR横浜線・東急田園都市線長津田駅南口より徒歩10分
(駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。)



市民推進会議広報誌・バックナンバー公開中!



市民推進会議広報誌のバックナンバーを横浜市のHPで公開しています。市民の森をレポートしたバックナンバーもあるので、ぜひアクセスしてみてください!

詳しくはこちら!



横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。



ご意見・ご感想をお待ちしています!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!



YokohamaみどりアップAction 第4号
(旧みどりアップQ)(市民推進会議広報誌第39号)令和3年3月発行
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ
横浜市環境創造局政策課(事務局)
TEL:045-671-4214 FAX:045-550-4093
E-mail:ks-mimiplan@city.yokohama.jp



Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.5
2021.11



農園付公園に
行ってみよう。

横浜みどりアップ計画



① 岡津町ふれあい公園 ② アドバイスをする栽培相談員 ③ 団体区画利用の保育園児

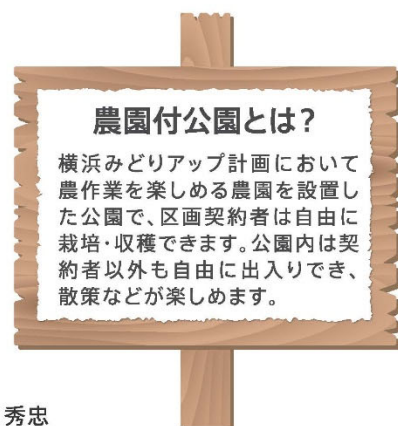
農園付公園で 野菜づくりをはじめませんか？

梅雨明け間もない晴天の7月、泉区緑園都市に近い「岡津町ふれあい公園」を訪問しました。

公園といっても中央に広がるのは農園、そして周りを囲む樹林。

ここには、子どもや高齢者、障害のある方、

誰もが野菜や土に親しめるきっかけがありそうです。 文：奥井 奈都美、高橋 秀忠



農園付公園とは？

横浜みどりアップ計画において農作業を楽しめる農園を設置した公園で、区画契約者は自由に栽培・収穫できます。公園内は契約者以外も自由に入出りでき、散策などが楽しめます。



自分だけの畑で 自分なりの野菜づくり

農体験ゾーンの団体区画で最初にあったのは、かわいい利用者さん。地元保育園の園児でした。ちょうど収穫にきたところで、手に持っている野菜を見せてもらうと、ピーマン、トマト、ナス、ししとうと色鮮やかな夏野菜でした。「どんな野菜が好き？」という問いかけに、意外にも「ピーマン！」という元気な声。保育園では収穫した野菜を調理し、給食として食べているそう。みんな自分の手で育てた野菜の美味しさをよく知っているんですね。

2年以上個人区画を利用しているという方にも畑を見せていただくと、こちらも立派なトマト、ナス、オクラが育っていました。話を聞くと、せっかく美味しそうに育ったトウモロコシを、ハクビシンに食べられてしまったとのこと。畑の周りをしっかりと網で囲って獣害対策をしていました。



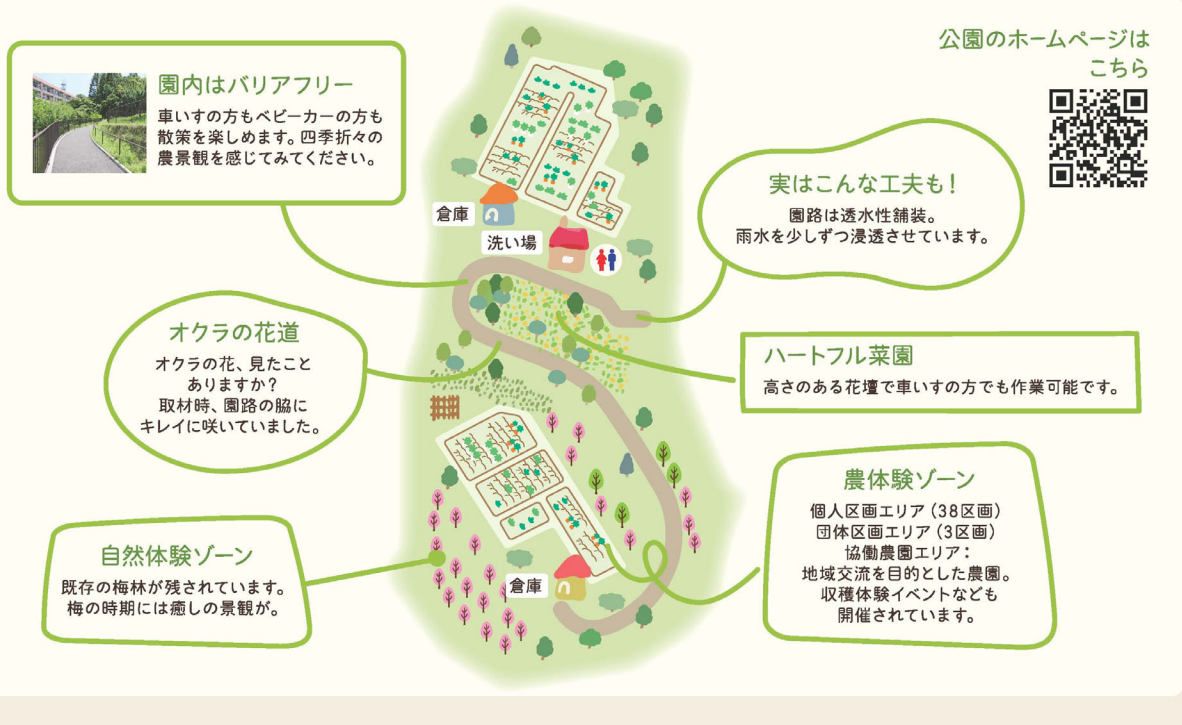
初めてでも 誰でも楽しめる！

公園にいる指定管理者の栽培相談員が、土づくりをはじめ、植付けから収穫までの野菜の育て方を定期的にアドバイスしてくれます。クワやスコップ、ジョウロ、バケツなどの道具の無料貸出しや土の酸度を測定するサービスも。菜園活動をサポートしてもらえます。

園内には、車イスのままでも野菜づくりが楽しめる「ハートフル菜園」もありました。ここでは近隣の特別養護老人ホームと協働で野菜づくりをしているそうです。



岡津町ふれあい公園の案内図



① 栽培相談員と談笑する利用者 ② ハートフル菜園で植え付けする利用者 ③ 協働農園では地域の方と農作業も



公園×野菜づくり＝ 地域交流?!

この公園を管理しているのは、横浜に根差して130年の歴史を持つ種苗会社。利用者の皆さんは専門の会社から種や肥料を注文することもできるので安心ですね。ここでは「はまっ子ユーキ」という、市内の公園緑地や街路樹の管理で出た剪定枝や刈草をリサイクルした環境にやさしい堆肥を提供していました。

感染症が流行する前は、近隣の特別養護老人ホームと連携しながら、農園で採れた野菜を使ってBBQや焼き芋をして、地域の皆さんとの交流を図っていました。再開を楽しみに待っている人もきっと多いことでしょう。



ここにみどり税

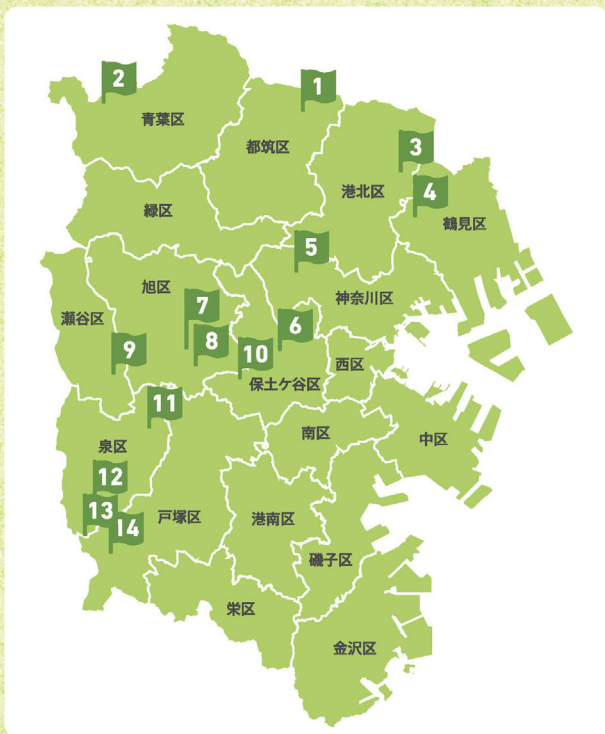
みどりアップ計画では、市民が身近に農体験ができる公園として、農園付公園を設置しています。公園整備に横浜みどり税を使っています。

横浜みどりアップ 葉っぱ



市内の農園のある公園

農園のある公園は市内に14か所あり、初心者からベテランの方までたくさんの方が野菜づくりを楽しんでいます。園内を散策することもできますので、まずはお近くの公園に足を運んで農を感じてみてはいかがでしょうか。



市内の農園のある公園

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 大棚杉の森ふれあい公園 | 都筑区大棚町472-1 |
| ② 若草台第二公園 | 青葉区若草台6-1 |
| ③ 師岡町梅の丘公園 | 港北区師岡町511-3 |
| ④ 東寺尾一丁目ふれあい公園 | 鶴見区東寺尾1丁目66-1 |
| ⑤ 菅田町赤坂公園 | 神奈川区菅田町222-1 |
| ⑥ 仏向原ふれあい公園 | 保土ヶ谷区仏向町1252番1 |
| ⑦ 南本宿公園 | 旭区南本宿町37-4 |
| ⑧ 南本宿第三公園 | 旭区南本宿町81-3 |
| ⑨ 阿久和富士見小金台公園 | 瀬谷区阿久和東2丁目61-1 |
| ⑩ 今井の丘公園 | 保土ヶ谷区新桜ヶ丘1丁目42 |
| ⑪ 岡津町ふれあい公園 | 泉区岡津町2623 |
| ⑫ 泉が丘公園 | 泉区和泉が丘3丁目6 |
| ⑬ 和泉アカシア公園 | 泉区下和泉1丁目8 |
| ⑭ 深谷町ふれあい公園 | 戸塚区深谷町1272-5 |

☆区画の空き状況、利用料金等については、各公園の指定管理者にお問い合わせください。(各公園のホームページも参考にしてください)

市民推進会議広報誌・バックナンバー公開中!



市民推進会議広報誌のバックナンバーを横浜市のHPで公開しています。「農」をテーマにレポートしたバックナンバーもあるので、ぜひアクセスしてみてください!

詳しくはこちら!



横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

横浜みどりアップ計画市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!
※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



ご意見・ご感想をお待ちしています!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!



YokohamaみどりアップAction 第5号

(旧みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第40号) 令和3年11月発行

編集: 横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会
発行: 横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局)
TEL: 045-671-4214 FAX: 045-550-4093
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp



Yokohama みどりアップ Action

市民が発信
Vol.6
2022.02

みどりがつなぐ
活動のバトン





① 興味をもった保育園児も参加

レガシーつなぐ花時計



みなとみらい地区の運河パークに丸い花時計(日時計)があります。これは、2009年に開催された「開国博Y150」を祝して、横浜青年会議所と市内企業を中心とする実行委員会により開国博入り口前に作られました。当時は30m×40mの大きなものでしたが、終了後の撤去を惜しむ声があがり、市民団体が維持管理を引き継いで、モニュメント周辺部分に縮小して存続しています。10年以上にわたって、市民団体の方々による緑のまちづくりの活動として、ボランティア参加の市民とともに花時計を育んできました。 文：国吉 純、村松 晶子



花時計に関わる 多くの人々の協力

現在、花時計は「NPO法人横浜移動サービス協議会」によって維持管理されています。開国博時の幹事会社や公益財団法人横浜市緑の協会の支援をもとに活動を進め、「一般社団法人横浜みなとみらい21」からはタネや苗の支援をしています。隣接するホテルは、当初より協力いただき駐車場に園芸道具の収納場所を提供。それによって重い道具等を自宅から持っていく必要がなくなりました。今後、ロープウェイで乗降する観光客の方達とのワークショップの開催など、周辺の企業ともいろいろな連携ができることを期待しています。



だれでも参加できる 花壇の手入れ

月2回の作業日には、近隣の自治会や福祉作業所、保育園の子供たちが植替えや水やりに来ています。作業日以外にも水やりなど、気づいた時に手入れをしているそうです。車椅子の方々には貴重な屋外活動であり、子供たちにとっては車椅子の方と交流する機会ともなっています。花壇の手入れをしていると、通りすがりの人が手伝ってくれることもあります。花の好きな人には土に触れることができる魅力的な場です。「花壇のボランティアはいつでも大歓迎!」とのこと。



花時計から未来へ

2021年4月に桜木町駅から花時計のあるところまでロープウェイが開業。この花時計の花壇と活動の様子をロープウェイを利用する方々、そして駅から散策する方々の目にとまる機会が増えました。今後は、関内駅からこの花壇までの道のりを新たに花のアプローチで繋ぐ企画を考えているそうです。これによって駅と駅、花と花、そして人と人との繋がりがさらに発展していくことになるでしょう。

開国博の記憶とみなとみらいのシンボルとして、企業、市民、行政が協働して美しい花壇を続けていってほしいと願っています。



ここにみどり税

地域緑のまちづくり事業では、「緑や花でいっぱい街をつくりたい」という地域の思いを実現するため、計画づくり、花や木の植栽、維持管理などにみどり税を活用して、緑のまちづくりに地域と協働で取り組んでいます。

横浜みどりアップ 葉っぱ





②、③維持管理活動の様子 ④花壇に咲くマリーゴールド ⑤多くの人の目に留まる立地
⑥園芸道具 ⑦花時計を中心に自然と交流が生まれる

みなとみらい21新港地区の 地域緑のまちづくり

みなとみらい21地区などの都心臨海部では、これまでも様々な場所で地域が連携して緑や花によって街を彩る取組が進められています。緑や花で彩られたみなとみらいにぜひお越しください。



①アニヴェルセルみなとみらい横浜(16街区)での緑化 ②マリン&ウォーク横浜(4街区)での緑化
③グランドオリエンタルみなとみらい(11-2街区)での緑化 ④新港中央広場(8街区)での緑化





森づくりボランティアしませんか？

ヨコハマ 「森づくり体験会」

参加者 募集

「森づくり体験会（ボランティア）」に
参加して、身近な森をもっとよく知り、
まもる活動を一緒にしませんか？

横浜には、大都市でありながら
多くの樹林地が残されています。
良好な森を維持するためには、人
の手による管理が必要で、管理が
行き届かないために荒れてしまう
森も少なくありません。



横浜には緑豊かな樹林地が多く残されています



良好に管理された森で
散歩や森林浴を！

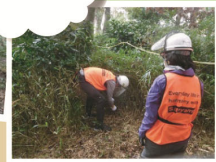
森づくり体験会とは？

「森でボランティアをしてみたい！」と思った方と、手入れを必要
としている緑地との橋渡しをお手伝いするプログラムで、草刈り
や小さな木の伐採等、森の管理の基本となる作業を行います。
スタッフがっているので初心者でも安心してご参加いただけます。



小さな木の間伐作業

こんな作業を
します！



ササ刈り作業

森づくり体験会に参加すると??

ボランティア活動したことを
『証明するカード』がもらえます！

さらに…

- ・身近な森を守る活動ができます。
- ・森づくり活動に必要な技術・知識が身に付きます。
- ・市内で活躍する森づくりボランティアとの交流ができます！



森づくり
ボランティアに
参加しました！



森づくり体験会の詳細・申込はこちら！

※QRコードを読み込むか、URLにアクセスしてください。
URL : <https://nora-yokohama.org/join/?cat=153>
【森づくり体験会運営団体（よこはま里山研究所 NORA）のホームページにリンクしています】
※申込み先着順で定員になり次第申込み締め切りとなります。



開催日・場所等、
最新情報が
確認できます。



※森づくり体験会への参加には森づくりボランティアへの登録が必要です。(参加当日の登録も可) 森づくりボランティア、登録方法についての詳細は裏面をご覧ください。

発行 | 横浜みどりアップ計画市民推進会議
広報・見える化部会

問合せ | 横浜市環境創造局政策課
電話 045-671-4214 FAX 045-550-4093
Eメール : ks-mimiplan@city.yokohama.jp



森づくりボランティアについて

横浜の森では、多くのボランティアの方たちが生き物の多様性や人の利用等に配慮した草刈り、間伐、生き物調査といった「森づくり活動」を行っています。横浜市はそのようなボランティアの方たちに、様々な支援を行っています。

※森づくりボランティアは、横浜市市民協働による森づくりに関する要綱に基づく制度です。

■登録条件は？

・18歳以上の横浜市在住・在学・在勤の方

■森づくりボランティアに登録すると？

こんな支援が受けられます！

ニュースレターによる情報提供



よこはまの森ニュースレター

森づくり活動団体や森づくりグループの紹介、イベント等、森づくりに役立つ情報をお届けします。

森づくりに関する研修案内



自然観察講習会チラシ 森づくり体験会チラシ

森づくりに関する技術・知識を学ぶことのできる研修等の情報や森づくりを行っている団体の情報提供を受けることができます。

※体験会当日の登録もOK!

森づくりボランティア登録のながれ

- ①横浜市みどりアップ推進課ホームページから申請書をダウンロード
- ②みどりアップ推進課に申請書提出（メール・FAX可）
- ③承認・登録完了

みどりアップ推進課 HP (森づくりボランティア 支援の仕組みと手続き)

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori_up/1mori/volunteer/mori-youkou.html



横浜みどりアップ計画とは？

豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています

横浜みどりアップ計画



横浜みどりアップ 葉っぴー

2022 年〇月発行
横浜みどりアップ計画市民推進会議